

平成 20 年度版

豊田市森づくり白書



豊 田 市

目 次

平成 20 年度に実施した施策の概要	1
1. 予算の執行状況	1
2. 主な施策の実施状況	1
(1) 間伐推進プロジェクト	1
(2) 団地化推進プロジェクト	3
(3) 林業労働力確保プロジェクト	5
(4) 林業用路網整備プロジェクト	6
(5) 素材生産の効率化・低コスト化プロジェクト	7
(6) 木材利用促進プロジェクト	8
3. その他の主要な施策の実施状況	9
(1) 共働による森づくりの推進と「とよた森林学校」の開催	9
(2) 間伐モニタリング調査の実施	10
第 1 章 豊田市の森林を取り巻く環境	12
豊田市の森林の現状	12
1. 総括	12
2. 人工林の現状	12
3. 天然林の現状	13
木材価格の変化と木材生産量	13
1. 豊田市の木材生産量	13
2. 豊田森林組合木材センターの木材取扱量と平均単価	14
3. スギ・ヒノキの取扱量と平均単価	14
森づくりの担い手「豊田森林組合」の現状	14
1. 組織（平成 20 年度末現在値）	14
(1) 組合員の状況	14
(2) 常勤の役職員数	15
(3) 作業班員数	15
(4) 中核組合の認定	15
(5) 下山地区開発事務所の設置	15
2. 事業活動	15
(1) 指導部門	15
(2) 販売部門	16
(3) 加工部門	16
(4) 森林整備部門	16
(5) とよた森林学校	16

第2章 豊田市が目指す森づくりの仕組	17
豊田市の森づくり	17
1. 立地条件等に応じた森林区分と施業方針	17
2. 「森づくり会議」の設置と「森づくり団地」の設定	17
(1) 森づくり会議	17
(2) 森づくり団地	18
(3) トピック「森づくり団地」第1号誕生“市長も間伐”	18
3. 森林組合による「森のカルテ」と「森のプラン」の作成	18
4. 森林所有者への啓蒙普及	18
(1) とよた森林学校	18
(2) 啓発普	19
5. とよた森づくり委員会による事業評価	19
第3章 平成20年度に実施した森林施策	20
平成20年度 予算執行実績	20
1. 歳入決算額	20
2. 歳出決算額	20
平成20年度事業実績と進捗状況	21
1. 「とよた森づくり委員会」の開催	21
2. 具体的施策(その1) 重点プロジェクト	22
(1) 間伐推進プロジェクト	22
(2) 団地化促進プロジェクト	24
(3) 林業労働力確保プロジェクト	26
(4) 林業用路網整備プロジェクト	27
(5) 素材生産の効率化・低コスト化プロジェクト	31
(6) 木材利用促進プロジェクト	32
3. 具体的施策(その2) その他の主要な施策	33
(1) 森林の現況把握に関する施策	33
(2) 木材以外の森林資源の活用に関する施策	33
(3) とよた森林学校に関する施設	34
(4) 山村地域の活性化と文化の伝承に関する施策	36
(5) NPO・森林ボランティア等との共働による森づくりに関する施策	36
(6) 事業計画・事業評価に関する施策	38
4. 管理業務	39
(1) 伐採届の受理	39
(2) 豊田市森林会館の管理	39
(3) 市有林の管理	39
(4) 林道維持管理	42
5. 講演、視察受入等の森づくり推進活動	42
(1) 講演	42
(2) 視察等の受け入れ	43

(3) 印刷物等への掲載	43
(4) 市政番組「とよたNOW」特番の放映	43
(5) 関連行事	43
6 . 産業部森林課の組織と主な業務(平成 20 年度)	44
(附)豊田市森づくり条例	45

利用される方へ

- 1 . H17、H18、H19、H20 は、それぞれ年度を表します。
- 2 . 時点は平成 21 年 3 月 31 日現在及び各年度末の数値を記載しました。
- 3 . 表中符号の用法は次の通りです。
「 0 」: 四捨五入後単位未満、「 - 」: 該当数字なし、「...」: 不明
- 4 . 事業量の数値は、四捨五入していますので、内訳と計は必ずしも一致しないことがあります。

平成 20 年度版 **豊田市森づくり白書**

平成 21 年 12 月

発行者 豊田市

編 集 豊田市産業部森林課

〒444 2424 愛知県豊田市足助町

宮ノ後 19 5 (豊田市足助支所地内)

: 0565-62-0602 FAX:62-0612

E-mail : shinrin@city.toyota.aichi.jp

平成20年度に実施した施策の概要

平成20年度は、「豊田市森づくり基本計画」（以下「基本計画」という。）に定める事業期間の初年度であり、計画的な間伐推進の鍵となる地域組織（地域森づくり会議）の設立と、団地計画に基づく間伐施業の推進を最大の課題として、各種の事業を実施しました。しかし、従来の森林施策にはなかった『森林所有者が自ら施業界を確定し団地の間伐計画を立てたうえで、集団的に間伐推進を図る。』という手法には、当初の予想以上に手間と時間を要し、全体的には間伐面積が計画量を大きく下回る結果となりました。来年度以降は、さらに積極的な事業推進策を検討したうえで、推進体制等の強化を図る必要があります。

1. 予算の執行状況

平成20年度の事業実施状況は、事業総予算873百万円に対して、事業実績は793百万円であり、執行率は約91%（前年度98%）となりました。執行率が下がった原因は、市が助成対象としている間伐事業が計画数量に対して大幅に減少し、間伐促進費・矢作川水源林対策費及び森づくり推進組織育成費などの補助金・交付金で大きな不要額が生じたことによります。

また、前年度と比較して予算額が大幅に減少した理由は、昨年度は「豊田市森づくり基金」を補正予算で20億円の増額計上したことによるものです。

歳出予算額と決算額の状況

（単位：千円・％）

年 度	予 算 額			決算額	未執行額	執行率
	当初予算	補正予算	最終予算			
H19	827,237	1,959,735	2,786,972	2,740,474	46,498	98.3
H20	977,587	△104,964	872,623	792,961	79,662	90.9
前年度比	118.2	—	31.3	28.9	171.3	—

資料：財政課

2. 主な施策の実施状況

豊田市は、「豊田市100年の森づくり構想」（以下「構想」という。）の中で施策の最重点課題を「向こう20年間で市内から間伐手遅れ人工林を一掃し、森林が本来持つ様々な機能を高度に発揮できるような状態にする。」こととし、そのために、平成20年度から10年間で25,000haの間伐をすることを決めました。平成19年度は基本計画に定めた主要施策の前段階でしたが、平成20年度は計画初年度として各事業を実施しました。そのうち、基本計画で定めた6つの重点プロジェクトについて、平成20年度に実施した事業の概要は次のとおりです。



神殿団地の杭打ち状況

（1）間伐推進プロジェクト

平成20年度は、各種の間伐補助事業等を総合的に組み合わせて実施した結果、次のとおり、1,276haの間伐を実施することができましたが、基本計画数量1,530haに対する達成率は83%

に終わりました。また、前年度の実績 1,280ha に比較しても 4ha(0.3%)の減少となりました。

その主な原因としては、①新しい豊田市のシステムによる森づくりが始まったばかりであり、森林所有者にまだ充分浸透していないこと、②団地計画の前提となる森林所有者による施業界の確定や、森林組合による測量や森のカルテの実施が予想以上に手間取っていること、③地域に森づくりの中心的な役割を担う人材が不足していること、④平成 20 年度は県の治山事業による間伐と農林公社事業が大幅に減少したこと、が考えられます。

市はその対策として、平成 21 年度以降に、①森林所有者への新しい説明パンフレット等の作成、②県・市・森林組合が協力した地域説明会での説明強化、③豊田森林組合が採用する「緑のコーディネーター」への助成、などの総合的な施策を進めることにより、間伐の推進を図っていきます。

<平成 20 年度間伐推進プロジェクトの達成状況>

森づくり基本計画 (平成 20～29 年度)			平成 20 年度実績			(参考) 平成 21 年度計画量		
10 年間 間伐面積 ①	平成 20 年度計画量		間伐面積 ③	単年度 達成率 ④/②	全 体 達成率 ⑤/①	間伐面積 ⑥	全 体 達成率 ⑦+⑧/①	
	面 積 ②	全体達成率 ②/①						
25,000ha	1,530ha	6%	1,276ha	83%	5%	1,790ha	13%	
市 関 連	14,210	960	7	833	87	6	1,070	14
県 等 実 施	10,790	570	5	437	77	4	720	12
自 力 等	—	—	—	6	—	—	—	—

資料：森林課

年度別・事業別間伐実施面積

(単位：ha)

年度	間伐実 施面積	計	豊田市補助対象等事業				県等事業	自力等
			造林事業	水源基金	水道水源	市有林		
H17	1,270	626	418	109	64	34	644	—
H18	1,351	797	449	215	110	20	544	10
H19	1,280	731	438	216	76	—	541	8
H20	1,276	833	529	197	37	70	437	6

(注)ha 未満は四捨五入。県等事業は農林公社・治山事業・県有林事業を含む。造林事業は国の補助事業に上乗せして実施。水源基金は矢作川水源林対策事業。水道水源は水道水源保全事業と環境林整備事業を含み、平成 20 年は 60ha が外数として造林事業に含まれる。市有林は豊田市有林における間伐事業で、外数として平成 19 年度 35ha、20 年度 38ha が造林事業に含まれる。

資料：森林課

(2) 団地化推進プロジェクト

市は、間伐を効率的に推進するとともに、従来から不明確なままに放置されていた森林施業界を、今のうちに所有者自らが確定することを目的として、間伐施業の団地化を図ることを重点施策に定めました。

間伐事業地の集団化を図るためには、地域の森林所有者が集まって、まず「森づくり会議」を設立します。その中で5～50ha程度の間伐団地を形成して、施業界確定・測量・森のカルテを実施した上で、計画的に間伐を実施していきます。

この森づくり会議は町単位(旧大字)を基本とし、平成29年度までに231会議の設立と、のべ15,000haの団地計画樹立を目指しています。平成20年度末までに42会議が設立され、達成率は18%と順調に進んでいますが、団地面積は308haにとどまり初年度の達成率は2%に終わりました。実際の間伐事業は団地計画に基づいて実施するため、今後は、特に団地設定に力を入れていく必要があります。

地域説明会の開催

平成20年度は、森林所有者に対して、森づくり会議及び団地設立に関する理解を浸透するため、自治区や地元からの要望等により、合計101回の説明会を開催し、延べ1,269名の参加者がありました。平成19年度の実績(説明会79回、参加者延べ1,311名)と比較すると、開催回数が増えた割に参加者は減少していますが、これは、説明会を小区域の団地毎に実施していることによるものです。

説明会では、職員自らが作成したパワーポイントで説明するとともに、豊田森林組合の職員も出席して間伐事業の説明を行いました。

今後は、あいち森と緑づくり税による「人工林森整備事業」も始まることから、豊田加茂農林水産事務所にも出席を依頼し、協同して森林所有者等への説明を行う予定です。



足助地区での森づくり説明会

地域森づくり会議の設置

地域森づくり会議を設置するための説明会を何度も開催し、地元代表者・市・森林組合が一体となって協議を重ねた結果、平成20年度中に、次の27地域で地域森づくり会議が設置されました。累計では42会議となり、順調に整備が進んでいます。しかし、今後は、地域の事情等により早期の設立が難しい地域への働きかけが必要となり、かなりの困難が予想されます。

次年度以降も、新たな地域森づくり会議の設立を進めるとともに、既存地域において間伐団地を設定していくことが重要となります。



稲武地区での森づくり説明会

<平成 20 年度団地化促進プロジェクト(森づくり会議)の達成状況>

森づくり基本計画 (平成 20～29 年度)			平成 20 年度実績		累 計	
			会議数	達成率	会議数	達成率
会 議 数	平成 29 年度(10 年間)	㉑ 231 会議	㉒ 27 会議	㉓/㉑ 12%	㉔ 42 会議	㉕/㉑ 18%
	平成 24 年度(5 年間)	㉖ 150		㉓/㉖ 18		㉕/㉖ 28

資料：森林課

<平成 20 年度地域森づくり会議の設置実績>

地 区 名	会議数	町 数
豊 田	2	3(一部含む)
小 原	2	2
足 助	11	16(一部含む)
下 山	7	7
旭	3	4(一部含む)
稲 武	2	2
合 計	27	34(一部含む)

資料：森林課



林内が明るくなった 40%間伐実施林

森づくり団地の設定

会議の設立後は、おおむね小流域等を単位とした人工林 5～50ha 程度のまとまりを間伐団地として設定していきます。平成 20 年度は、上半期が主に会議設立や森林所有者による施業界確定に時間をとられたため、308ha の間伐団地の設定に終わりました。

来年度以降、この団地計画の樹立面積を大幅に増加し、間伐の実施につなげるのが重要な課題となります。そのためには、①森林所有者のやる気を喚起するような PR の強化、②団地計画の樹立を引っばるリーダーの発掘・育成、③各種間伐事業の整理と簡素化、④直接森林所有者を指導・啓発する森林組合職員のレベルアップ、⑤地域の人工林実情に応じた「フレキシブル」な助成対応、などの新しい取組みが必要となります。

<平成 20 年度森づくり団地の認定実績>

地 区 名	団 地 数	認定面積 (ha)
豊 田	2	16.45
小 原	1	7.10
足 助	4	43.33
下 山	4	82.23
旭	4	48.64
稲 武	5	110.26
合 計	20	308.01

資料：森林課



押山地域森づくり会議での団地検討状況

(3) 林業労働力確保プロジェクト

基本計画に基づき間伐事業を実施するためには、現在の豊田森林組合の林業労働力だけでは大幅に不足することが見込まれます。今後は、新たな林業労働力を確保するために、既存の林業労働力育成システムを活用するとともに、他の林業事業体の導入や育成を検討する必要があります。

平成20年度は、「緑の雇用担い手対策事業」で6名の研修生、「とよた森林学校セミプロ林業作業員育成講座」で7名の受講者を受け入れました。今後は、これらの研修を受けた人材が、永続的に林業作業に従事できるような仕組み作りが必要となります。

<平成20年度林業労働力確保プロジェクトの達成状況>

森づくり基本計画 (平成20～29年度)			平成20年度実績	
			人数	達成率
緑の 雇 用 生	平成29年度(10年間)	100人	6人	6%
	平成24年度(5年間)	50		12%
森 林 受 講 校 生	平成29年度(10年間)	100	7	7%
	平成24年度(5年間)	50		14%



緑の研修生の活動状況

資料：森林課・豊田森林組合

平成20年度林業労働力の育成実績

(単位：人)

行 事 名	実 施 主 体	H17	H18	H19	H20
緑の雇用担い手対策事業	豊田森林組合	4	6	8	6
緑の人材活用森林整備事業	豊田森林組合	13	14	9	3
とよた森林学校(セミプロ育成講座)	豊田市	—	10	10	7

資料：森林課・豊田森林組合

(4) 林業用路網整備プロジェクト

平成 20 年度は、次のとおり整備しました。戦後に拡大造林された人工林が成熟していくにしたがい、今後、林業用路網の整備がますます重要になりますが、同時に災害に強い道作りの確立も必要です。

<平成 20 年度林業用路網整備プロジェクトの達成状況> (単位：km・%)

森づくり基本計画(平成 20～29 年度)			平成 20 年度実績	
			延長	達成率
新規路網 整備延長	平成 29 (10 年間)	200	14.33	7
	平成 24 (5 年間)	55		26
林道	平成 29 (10 年間)	40	3.33	8
	平成 24 (5 年間)	20		17
低コスト林道	平成 29 (10 年間)	33	0	0
	平成 24 (5 年間)	6		0
作業道	平成 29 (10 年間)	47	5.53	12
	平成 24 (5 年間)	15		37
搬出路	平成 29 (10 年間)	80	9.07	11
	平成 24 (5 年間)	14		65

資料：森林課

林業用路網の整備実績 (単位：m)

区分		H17	H18	H19	H20
林道	開設	3,443	3,920	3,030	3,332
	改良	757	870	708	770
	舗装	5,931	5,140	5,666	6,198
作業道		3,192	3,230	2,583	5,534
搬出路		1,200	2,900	2,678	※9,069

※H20 より調査方法を変更
(H19 基準では 5,474)

資料：森林課



林道 堤上知祖線開設状況



搬出路の整備状況

(5) 素材生産の効率化・低コスト化プロジェクト

市が目指す人工林整備を推進するためには、生産経費を下げ採算性を高めることにより、利用間伐を増加する必要があります。豊田森林組合では、高性能林業機械を活用した作業システムを積極的に導入して、木材生産の効率化・低コスト化に取り組んでいます。

市は平成20年度に豊田森林組合が国庫補助事業で導入する高性能林業機械(ハーベスタ・スイングヤーダ・フォワーダ各1台)に対して3/10の上乗せ助成することにより、機械化・省力化による木材生産のコストダウン促進の支援をしました。

平成20年度素材生産の効率化・低コスト化プロジェクトの達成状況

森づくり基本計画(平成20～29年度)			平成20年度実績	
			数 値	達 成 率
伐採搬出コスト	H29(10年後)	8,000 円/m ³	…	—
	H24(5年後)	10,000		—
利用間伐面積	H29(10年後)	610ha/年	116ha	19%
	H24(5年後)	230		50
間伐に伴う 素材生産量	H29(10年後)	36,000 m ³ /年	14,035 m ³	39
	H24(5年後)	15,000		94

資料料：森林課

平成20年度 高性能林業機械導入費補助金の交付実績 (単位：台・千円)

高性能林業機械名		購入金額	補助金		
			市補助金	国補助金	自己負担金
ハーベスタ	1	19,900	5,970	9,950	3,980
スイングヤーダ	1	17,000	5,100	8,500	3,400
フォワーダ	1	10,900	3,270	5,450	2,180
合 計	3	47,800	14,340	23,900	9,560

資料：森林課

現在稼動している作業システムはまだ確立されたものではなく、今後は、県などと連携をとりながら、さらに効率的なシステムの検討、事業地の集団化、高性能林業機械オペレーターの技能向上及び木材の直送システムの構築などの課題解決に積極的に取り組んでいく必要があります。

(6) 木材利用促進プロジェクト

利用間伐を増加するためには、素材生産の効率化や低コスト化だけではなく、生産された木材を有効活用していくことが重要です。まず、市が公共施設等にできるだけ地域産材を利用することで、他方面にも波及していくよう努めていきます。

今後は、設計部局への積極的なPRとともに、木材利用促進の基となる安定して割安な原木の供給体制の強化等が必要となります。

平成 20 年度 木材利用促進プロジェクトの達成状況 (単位：m³・%)

森づくり基本計画(平成 20～29 年度)			平成 20 年度実績	
			数 量	達成率
市の公共事業における木材使用量	H29(10 年後)	1,000	708	71
	H24(5 年後)	600		18

資料：森林課

豊田市の公共事業における木材の使用量 (単位：m³)

区 分	H17	H18	H19	H20
市の公共事業における木材使用量	417.08	448.02	488.76	708.21
木材を利用した主な施設	帰農者滞在施設 巴ヶ丘小学校	市営住宅 公衆トイレ	浄水駅地下通路 保見交流館	足助交流館 市民農園 他

資料：技術管理課・建築住宅課

また、本プロジェクトで達成目標のひとつとして定めた「原木の販売体制の整備」については、平成 19 年度から豊田森林組合が、三重県松阪市の大規模製材工場との長期年間契約による原木直送システムの構築・強化に努めています。

これは、大型トラックが横付けできる大型山土場から木材市場を経由しないで、大型トレーラーにより大量に原木を製材工場へ直送することで運搬経費等を削減する仕組みです。取扱量は毎年増加しており、今後の動向が注目されます。

原木直送システムによる取扱量 (単位：m³)

区 分	H19	H20
原 木	487	1,310

資料：豊田森林組合



(大型トレーラーを使った運送)

3. その他の主要な施策の実施状況

条例及び構想に基づき、市内の森林を適正に管理していくためには、重点プロジェクトだけでなく、様々な施策を総合的に実施していく必要があります。

その中で、主要な施策として、平成20年度には次のような事業を実施しました。

(1) 共働による森づくりの推進と「とよた森林学校」の開催

間伐を中心とした森づくりを計画的に実施していくためには、今後も多額な補助金等の税金投入が必要であり、その負担者である一般市民や企業の理解と協力が必要となります。そのため、平成20年度は、次の施策を実施しました。

とよた森林学校の開催

平成20年度は、とよた森林学校の3年目として、16講座延べ81日の講座を開催するとともに、事務局が自主的に企画する講座を5回とフォローアップ研修を5回、市内の小中学校等からの依頼に基づいて実施する出前講座を52回開催しました。ほとんどの講座で定員を上回る応募があり、森林・林業に係る人材育成と一般市民における理解者の増加という点で、大きな成果を上げました。

平成20年度とよた森林学校の講座内容と受講者数 (単位：講座・日・人)

講座区分	講座数	開催日数	募集人員	応募総数	受講者数
人材育成コース	7	56	90	97	83
森の応援団コース	9	25	190	233	198
小計	16	81	280	330	281
事務局企画講座	5	5	90	219	128
フォローアップ研修	5	5	—	—	40
出前講座	—	52	—	—	1,433

資料：森林課

とよた森林学校3周年記念行事の開催

平成18年度に開校した、とよた森林学校は3周年を迎え、平成21年3月22日に、「とよた森林学校3周年記念行事」を次のとおり開催しました。

午前中は、会場を2ヶ所に分け、自然観察会とOB交流会を行いました。午後は、記念講演として東京大学農学生命科学研究科鷺谷いづみ教授から「生物多様性の観点から見た人工林管理のあり方」について講演をいただき、保見交流館大ホールが一杯となる盛況でした。また、森林学校のOBから成る自主活動グループのうち、「とよた柚人会」「蒼の森クラブ」「森もり会」から活動報告もあり、全体で森林学校卒業生125名、一般参加者14名の合計139名の参加者がありました。

(単位：人)

区分	行事	場所	参加者
午前の部	自然観察会	勘八市有林	84
	OB交流会	保見交流館	41
	小計		125
午後の部	記念講演会	保見交流館	139
	OB活動発表会	〃	(139)
	小計		139

資料：森林課



3周年記念行事の状況

森林活動の森・大洞の運用開始

基本計画で提示した「(仮)市民の森」として、平成 19 年度に大洞市有林(64ha)を「森林活動の森・大洞」と定めるとともに、PRパンフレットを作成しました。

平成 20 年度には、事業実施要領を制定したうえで、市広報等を通じて活動グループを公募しました。次の 3 団体から応募があり、市が計画書を承諾し、活動協定書を締結したうえで、間伐又は自然観察活動を実施しました。

<平成 20 年度 森林活動の森・大洞の活動団体> (単位:日)

団体名	活動内容	活動日数
小原こだまの会	間伐等	9
トヨタ森林キーパーズ	間伐等	13
森もり会	自然観察	5

資料: 森林課



小原こだまの会による活動

森づくり月間及び森づくりの日に関するイベントの開催

広く一般市民に対して、市が目指している森づくりをPRするために、豊田市森づくり条例(以下「条例」という。)第 16 条に定めた森づくり月間(10 月)及び森づくりの日(10 月 26 日)に、次のイベントを開催しました。その結果、森づくりの日の各行事には全部で 1,159 人、森づくり月間の行事には 1,300 人の参加者がありました。

平成 20 年度森づくり月間及び森づくりの日のイベントの開催状況

区分	内容
森づくり月間	ものづくりフェスタ、ALL TOYOTA Big Holiday、森の健康診断報告会他
森づくりの日	間伐体験会、自然観察会、人工林・巨木見学ツアー、森づくり講演会他

資料: 森林課



<ものづくりフェスタの様子>



<巨木見学ツアー>

(2) 間伐モニタリング調査の実施

市は、公益的機能が高い人工林の復活を目指して、間伐手遅れ人工林に対し本数比 40%以上の間伐の推進を目指しています。しかし、間伐後の下層植生が経時的にどのように回復するかなどのデータが乏しく、経験的推論の域を出ないため、基本計画の中で間伐後のモニタリング調査の実施を定めています。

平成 20 年度は、間伐モニタリング調査の初年度として、大洞市有林始め 5 市有林のいろいろな間伐手法の実施地区において調査プロットを設定し、間伐前の植生調査及び林分調査を実施しました。今後 2 年間で、さらに 50 か所の調査プロットを設定する予定です。

平成 20 年度モニタリング調査地

(単位：箇所)

年度	市有林	切置					巻枯らし					利用	皆伐	放置	その他	計	
		20%	30%	40%	50%	60%	20%	40%	50%	55%	60%	列状					
		放置	放置	放置	玉切	放置	放置										
平成 20 年度	大洞市有林			2	1			1							1		5
	城山市有林							4									4
	大多賀市有林											2					2
	御内市有林	2		2			2								1		7
	三ツ足市有林		2	2		2				1							7
	小 計	2	2	6	1	2	2	0	5	0	1	0	2	0	2	0	25

資料：森林課

第1章 豊田市の森林を取り巻く環境

豊田市の森林の現状

1. 総括

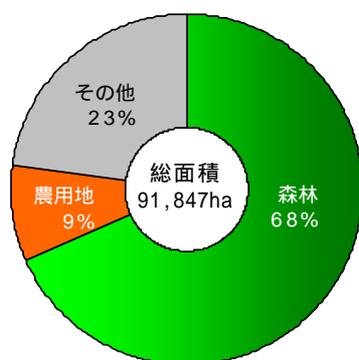
豊田市内の森林は、市域の約 68%を占める 62,676ha あり、そのうち 1,344ha を国有林、61,332ha を民有林が占めています。また、民有林のうち約 57%にあたる 35,139ha が人工林で、残りが広葉樹を中心とした天然林となっています。さらに人工林のうち、スギとヒノキの面積は 30,478ha で、全森林面積の約 50%、人工林面積の約 87%に上ります。

これらの人工林率は、地域的にみると旧東加茂郡で約 71%と高いのに比べて、旧西加茂郡では約 44%、旧豊田市では約 37%と低い値になっています。一方、天然林は市街地周辺や丘陵地帯に多く見られ、矢作川の上流域に向かうほど、その割合は低くなっていきます。

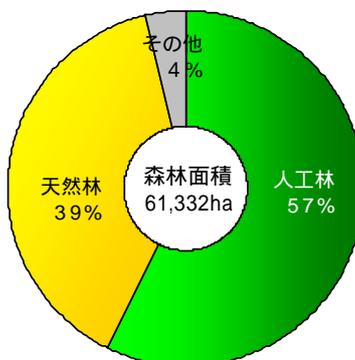
なお、人工林の約 13%を占めるマツ類のほとんどは、治山工事で植栽されたクロマツと尾根に植栽されたアカマツで、長野県の矢作川流域で数多く植えられているカラマツはごくわずかです。アカマツ・クロマツの大部分は松くい虫の被害や植生遷移などにより減少し、実際には天然林に変化しているものと推測されます。

また、竹林はのり粗朶(そだ)原材料や竹の子栽培などの利用が激減した結果、地下茎による旺盛な繁殖力で分布を拡大しており、川沿いの肥沃地を中心として人工林や天然林に侵入してきています。

< 豊田市の森林率 >

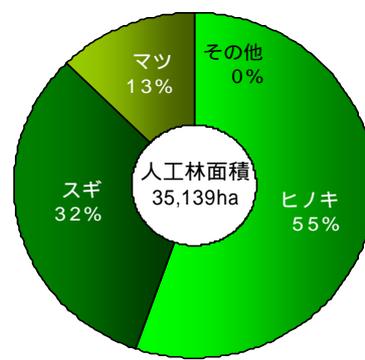


< 豊田市の人工林率 >



(注) 国有林を含まない。

< 人工林の樹種別割合 >



(注) 国有林を含まない。

資料：県森林整備課

2. 人工林の現状

人工林は、木材の収穫を目的とした田畑のようなもので、下刈・枝打・除伐・間伐など、収穫までの人為的管理が必要です。しかし、スギ・ヒノキの人工林約 30,500ha のうち、3分の2に当たる約 20,000ha が過密状態にある間伐手遅れ林であると推測されています。

間伐の遅れた人工林の多くは、林内の植生が極端に乏しく、地表がむき出しになっており、水源のかん養や災害防止といった機能が低下しています。人工林を適正に管理し、森林の持つ公益的機能を回復することが求められています。



矢作川森の健康診断による人工林調査

< 豊田市の地域毎の森林率と人工林率 >

	区域面積 A (ha)	森林面積 B (ha)	森林率 (%) C=B/A×100	森林のうち 人工林 D(ha)	人工林率 (%) E=D/B×100
豊田市	91,847	62,676	68	—	—
うち民有林	—	61,332	67	—	—
うち地域森林計画対象林	—	61,295		35,139	57
豊田地区	29,011	9,900	34	2,762	28
藤岡地区	6,558	4,704	72	1,672	36
小原地区	7,454	5,506	74	2,419	44
足助地区	19,327	16,249	84	9,883	61
下山地区	11,418	9,691	85	7,102	73
旭地区	8,216	6,689	81	4,649	70
稲武地区	9,863	8,555	87	6,651	78

※森林面積は平成 21 年 3 月 31 日現在

資料：県林務課

※ha 未満は四捨五入したので、内訳と計は必ずしも一致しない。

3. 天然林の現状

天然林のうち里山と呼ばれる地域は、かつては薪や炭の原料、水田の肥料を得る場所として人々が大切に手入れをしつつ活用してきた結果、コナラ・アベマキ・ヤマザクラなどを主とした落葉広葉樹林が成立してきました。しかし、燃料革命や生活様式の変化に伴い利用価値が少なくなり、今ではその多くが放置されています。近年になって、都市部に近い里山林を中心として、都市住民の潤いや癒しの空間、楽しみの場として見直されています。今後、市民が利用するために整備する天然林については、その利用方法と管理育成方法を新たに確立していくことが必要になっています。なお、人の手が入らなくなった天然林は、植生遷移によって、徐々に地域特有の極相林に変化していくものと思われます。



市内の極相林のひとつシイ-カシ林

木材価格の変化と木材生産量

市内の木材生産は、その多くを豊田森林組合が担っており、間伐の推進とともに、木材生産量の増加が見込まれます。また、木材価格については、外国産木材の輸入量の減少がどのような影響を与えるかを見守る必要があります。

1. 豊田市内の木材生産量

市内の人工林の蓄積は成熟期に向かいつつありますが、木材価格の低迷と生産経費の上昇による採算性の悪化等が原因で、木材生産量は低迷しています。しかし、今後は高性能林業機械の増加と効率的運用等により、生産量の増加が期待されます。

<豊田市内木材生産量>

(単位：m³)

年度	市内木材生産量	うち豊田森林組合の生産量		
		うち利用間伐	うち高性能林業機械使用	
H17	23,700	13,811	11,049	—
H18	24,300	14,689	8,000	3,320
H19	23,218	16,495	12,899	6,826
H20	28,900	17,660	14,035	6,912

資料：「森林組合の概要」及び豊田森林組合

2．豊田森林組合木材センターの木材取扱量と平均単価

市内にある原木市場は豊田森林組合木材センター(以下「木材センター」という。)だけであり、市内産の木材の大半は、この市場を経由して流通しています。木材センターの木材取扱量は増加傾向にあります。その平均単価は、今年度さらに若干の低下傾向にあります。

項目	H17	H18	H19	H20
木材取扱量(m ³)	8,086	11,154	13,037	13,643
平均単価(円/m ³)	15,886	16,458	13,713	13,974

資料：木材センター

3．スギ・ヒノキの取扱量と平均単価

木材センターでは、マツや広葉樹も取り扱いますが、主にスギ・ヒノキを取り扱っています。それぞれの取扱量と平均単価は次のとおりです。取扱量については、スギ・ヒノキとも増加傾向にあります。平均単価は、ここ数年間はスギが1万円前後、ヒノキが2万円前後で推移してきましたが、平成20年度はヒノキの単価が一層下落しました。

項目		H17	H18	H19	H20
スギ	木材取扱量(m ³)	3,268	4,228	6,437	5,889
	平均単価(円/m ³)	10,030	10,300	9,192	9,193
ヒノキ	木材取扱量(m ³)	4,254	6,588	6,220	7,494
	平均単価(円/m ³)	19,981	20,590	19,087	17,862

資料：木材センター

森づくりの担い手「豊田森林組合」の現状

豊田市内の森林組合は、市町村と同じ時期(平成17年4月1日)に、同じ範囲で対等合併し、全国的にみても有数の規模と事業量を持つ豊田森林組合となりました。しかしながら、組織体制や労務体制等に十分でない部分があり、その育成強化が今後の森林整備を推進していくうえで大きな課題となります。

1. 組織（平成20年度末現在値）

（1）組合員の状況

（単位：人）

資格区分	18年度末	19年度加入	19年度脱退	19年度末	20年度末
正組合員	8,618	6	4	8,620	8,623
准組合員	6	0	0	6	6
合計	8,624	6	4	8,626	8,629

資料：豊田森林組合

（2）常勤の役職員数

（単位：人）

年度	H17	H18	H19	H20
常勤役員数	2	2	2	2
常勤職員数	52	52	51	48

資料：豊田森林組合

（3）作業班員数

間伐等の森林整備の作業を行っているのは作業班員で、1人～7人程が班編成をして活動しています。豊田森林組合全体で56班あり、主に支所単位で活動しています。

豊田森林組合作業班員の年齢別構成表

（単位：人）

年度	30歳未満	30～39歳	40～59歳	60歳以上	合計
H17	11	10	34	79	134
H18	11	15	34	73	133
H19	11	19	41	75	146
H20	11	19	41	73	144

資料：豊田森林組合

（4）中核組合の認定

平成19年8月1日に、愛知県知事より県下初となる「中核組合」の認定を受けました。このことにより、国・県の森林組合指導方針に沿った各種の事業支援が受けやすくなります。

（5）下山地区開発事務所の設置

下山地区で開発が進められている「豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業」において、県企業庁からの要請に基づき、平成19年10月1日、「豊田森林組合下山地区開発事務所」を豊田市役所下山支所内に開設し、平成19年度の物件調査に続き本年度は調査追加分代替地情報収集と斡旋を行いました。

2. 事業活動

（1）指導部門

基本計画に記載された森づくり会議の設立や森づくり計画の樹立に向けて豊田市と共働して説明会を行いました。また、市より補助を受けて森のカルテ事業を推進しました。

(2) 販売部門(単位：m³・千円)

項 目		取扱量	売 上	項 目		買取量	売 上
販売事業	受託販売	3,720	49,012	林産事業	受託生産	8,452	94,083
	林産物	—	33,860		買取林産	715	10,018
	販売手数料	—	1,317		請負林産	5,731	65,336
木材センター事業		13,706	191,940	資料：豊田森林組合			

(3) 加工部門

(単位：千円)

項 目	取 扱 額	項 目	取 扱 額
加工製品	40,469	チップ・オガコ	10
杭	10,226	賃 挽 き	2,354

資料：豊田森林組合

(4) 森林整備部門

(単位：千円)

項 目		売 上
森林整備	森林整備・治山・林道等	491,536
利用事業	下山開発事業・とよた森林学校・森林整備支援交付金等	176,468
購買事業	苗木・肥料・チェーンソー等	53,558

資料：豊田森林組合

(5) とよた森林学校

平成 18 年度から豊田市の委託により、とよた森林学校の運営を受託しています。20 年度は年間 91 日の講座と延べ 1,227 人の受講者に対応しました。

(単位：千円)

項 目	受 託 額
とよた森林学校	25,800

資料：森林課

第2章 豊田市が目指す森づくりの仕組み

豊田市の森づくり

豊田市は条例・構想及び基本計画に基づき、地域の実情・森林所有者の意向・市民の森林に対する要望に応じた森づくりを進めていますが、その仕組みは次のとおりです。

間伐施業を団地化して集団的に実施していくことは従来から行われてきましたが、それを全市的に広げて実施するだけでなく、森林所有者が自ら集まって所有林の森林区分をし、間伐実施計画を立てるとともに施業界の杭入れも行うという仕組みは、全国的にも珍しいものです。

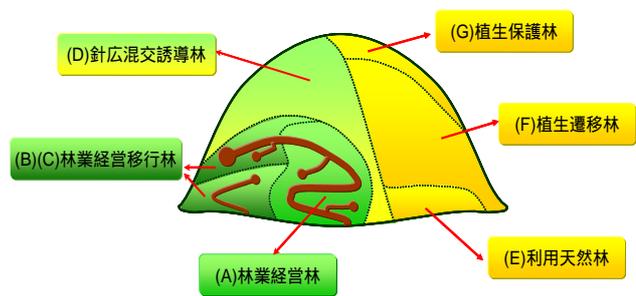
さらに、森林組合が人工林の現況調査「森のカルテ」を作成して森林所有者に配布するとともに、「森のプラン」により所有者に森林管理方法や経費(補助制度を含む)等を提案する仕組みも広がっています。

1. 立地条件等に応じた森林区分と施業方針

従来、間伐等に対する助成策はほぼ一律に交付されてきましたが、限られた予算の中で効率的に森林整備を進めるためには、森林の立地条件や森林管理目的等に応じた森林区分に基づき、補助率や補助対象を変えることが合理的です。そこで、市は構想の中で人工林を大きく林業経営林と針広混交林誘導林に分け、それぞれ補助率や補助対象事業を変えることにより、森林所有者の間伐推進に対する意欲を高めるよう努めています。

一方、天然林は、一部のいわゆる里山林として利用していく二次林やNPO等による整備林等以外は、自然の植生遷移により地域固有の極相林に誘導していく方針です。

市は構想の中で基本的な概念を提示し、最終的に森林所有者が自らの意向により森林区分を決定します。



森林区分の概念

2. 「森づくり会議」の設置と「森づくり団地」の設定

森林施業を長期間にわたり計画的に実施するためには、行政や森林組合だけでなく、森林所有者の理解と意識改革が必要です。市は、所有者が自主的に森づくりに取り組むための仕組みとして、市全域で「森づくり会議」と「森づくり団地」による集団的な間伐を推進していきます。

その前提となるのが、森林の所有界を確定することですが、地籍調査の実施が見込めない現状の中では、施業界だけでも所有者自らが決定することが必要となります。そのうえで、集約的かつ計画的に間伐を推進した場合は、市が間伐事業に対して高率の補助をするとともに、森づくり会議に交付金を助成しています。

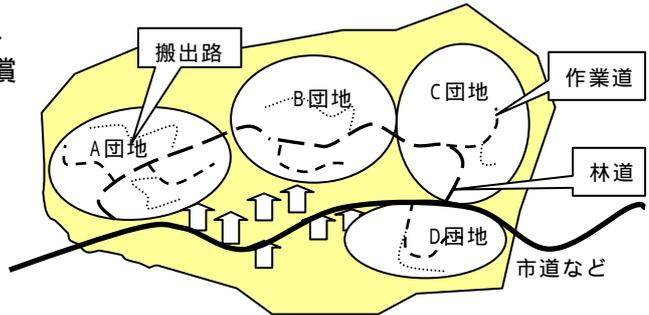
(1) 森づくり会議

町や自治区等を単位として、森林所有者自らが健全な森づくりを進めるための話合いの場として、意欲のある森林所有者などで「森づくり会議」を設置します。「森づくり会議」では、地域の森づくり方針や間伐団地(1団地5~50ha程度)の設置、林道等の計画について検討を行います。

(2) 森づくり団地

「森づくり会議」が設定した団地については、まず、所有者が集まって境界杭(森林組合が無償配布)を入れます。

その後に森林組合が実施する森林調査(森のカルテ)と測量の結果を基に、市が定めた森林区分に基づく間伐計画や搬出路等の整備について、10年間の計画を作ります。その際には、市と森林組合ができるだけ有利な補助金が受けられるよう指導等を行います。



森づくり団地のイメージ図

(3) トピック「森づくり団地」第1号誕生「市長も間伐」

平成20年度には、20団地で308haの森づくり団地計画を認定しましたが、その第1号団地として認定されたのは、箆林町(足助地区)地内にある第5塩平団地でした。区域面積は8.7ha、所有者は7人から成り、10月16日には、鈴木公平市長を招き、地元関係者やとよた森林学校受講生も加わって、間伐イベントを開催し、間伐推進をPRしました。その様子は、地元の新聞各紙や、林政ニュースにも掲載されました。



林政ニュース掲載記事

3. 森林組合による「森のカルテ」と「森のプラン」の作成

従来行なわれてきた間伐事業は森林所有者が森林組合にすべておまかせする事例が多かったことから、所有者が所有林の現状を正確に把握し、自ら施業方針を決めることが少なかったと思われます。そこで、市は、「森づくり団地」施業の中で所有者自らが森林管理について考えていくことを提唱しています。

まず、森林組合が人工林の現状を詳細に調査して人工林の診断書「森のカルテ」を作成し、所有林の現状を知らせると同時に、最も適切と思われる施業方法を「森のプラン」により提案します。それらを直接森林所有者に説明した後に、所有者は、「森づくり団地計画」の中で自らが10年間の施業内容を決めていきます。それに対して、市や森林組合は、支援及び指導をしていきます。

こうしたことを、少しずつ広げていき、森林所有者の方々の森林管理意欲を高めていきます。

4. 森林所有者への啓蒙普及

こうした森づくりの仕組みを森林所有者に広く普及するだけでなく、森林管理に対する知識や意欲を向上するために、いろいろな事業を展開しています。

(1) とよた森林学校

とよた森林学校では森林所有者に対して、森林の仕組みや働き、森林の管理方法、経営方針の立て方などを学ぶために、平成18年度より「素人山主森林経営講座」を開催してきましたが、

本年度より新たに「自力山主間伐講座」を開設し、所有者自らが間伐していく仕組み作りの支援を始めました。

(単位：人)

講座名	H18	H19	H20
素人山主森林経営講座	12	13	15
自力山主間伐講座			9

資料：森林課

(2) 啓発普及

年4回発行する「とよた森林学校だより」の中で市が目指す森林施策等についてPRしていくとともに、森林組合が年3回発行する「ウッディとよた通信」で普及活動をするのに対して助成をしています。



森林学校だより



ウッディ通信

5. とよた森づくり委員会による事業評価

基本計画に基づく各種事業の進捗管理は市森林課が担いますが、その状況を毎年公表するとともに、「とよた森づくり委員会」(P20 参照)により、事業評価と提言を受けます。同委員会は、条例第20条の規定に基づき、平成17年度から設置され、本年度は、学識経験者、林業関係者、公募市民等14名で構成されています。



森づくり委員会の開催状況

第3章 平成20年度に実施した森林施策

平成20年度 予算執行実績

1. 歳入決算額

(単位：千円)

項 目	H 19	H 20	比較
(1) 林業費負担金	3,970	4,821	851
(2) 林業使用料	435	438	3
(3) 林業費補助金	230,096	234,968	4,872
(4) 農業費委託金	0	1,470	1,470
(5) 林業費交付金	29,207	21,300	7,907
(6) 土地建物貸付収入	4,496	4,435	61
(7) 財産運用収入	1,450	0	1,450
(8) 利子及び配当金	0	15,591	15,591
(9) 生産物売払収入	30,736	33,674	2,938
(10) 農林水産費寄附金	0	100	100
(11) 雑 入	36,897	37,985	1,088
合 計	337,287	354,782	17,495

2. 歳出決算額

(単位：千円)

項 目	H 19	H 20	比較
(1) 流域森林保全啓発費	0	0	0
(2) 林業振興事務費	10,122	9,141	981
(3) 市有林管理費	51,061	67,545	16,484
(4) 林業労働力対策費	2,256	2,452	196
(5) 矢作川水源林対策費	57,492	59,469	1,977
(6) 森林病虫害防除費	0	0	0
(7) 林業振興指導費補助金	6,325	2,100	4,225
(8) 森林会館費	1,823	1,878	55
(9) 造林推進費補助金	441	0	441
(10) 林道整備事務費	7,249	4,649	2,600
(11) 林道開設費	233,231	207,888	25,343
(12) 林道舗装費	102,587	101,814	773
(13) 林道用地測量登記事務費	0	343	343
(14) 林道改良費	50,989	47,034	3,955
(15) 林道修繕費	11,550	18,681	7,131
(16) 林床栽培園設置推進費補助金	185	39	146
(17) 環境林整備費	16,102	26,139	10,037
(18) 森林整備市民活動費	722	503	219
(19) 間伐材搬出利用促進費	8,506	27,129	18,623
(20) 公共造林推進費	22,791	32,900	10,109

(21)	高性能林業機械施業促進費補助金	2,295	16,554	14,259
(22)	森のカルテ作成費補助金	3,015	2,500	515
(23)	森づくり推進費	-	18,024	18,024
(24)	新市森林保全費	7,128	0	7,128
(25)	(仮)森づくり委員会費	0	0	0
(26)	とよた森林学校費	24,425	27,210	2,785
(27)	林道維持管理費	19,592	15,257	4,335
(28)	豊田市木材需要促進センター(モッキー)費	156	271	115
(29)	森林整備地域活動支援費	38,941	28,400	10,541
(30)	フォレストコミュニティ総合整備費	29,443	0	29,443
(31)	作業道開設費	0	0	0
(32)	森林組合林道整備費補助金	15,960	22,492	6,532
(33)	足助農林センター費	2,691	2,948	257
(34)	森林組合運営費補助金	0	0	0
(35)	林道管理調査費	9,919	13,125	3,206
(36)	森づくり普及啓発費	2,919	1,622	1,297
(37)	県派遣職員人件費負担金	0	0	0
(38)	水源保全林整備費	0	0	0
(39)	人件費	548	497	51
(40)	林道整備調査費	0	16,373	16,373
(41)	山間地営農等振興費補助金	0	17,984	17,984
(42)	森づくり基金積立金	2,000,000	0	2,000,000
合 計		2,740,464	792,961	1,947,503

平成 20 年度事業実績と進捗状況

平成 20 年度の事業実績と進捗状況を、基本計画における重点プロジェクト及び主要な施策の区分に基づき、次のとおり取りまとめました。

1. 「とよた森づくり委員会」の開催

条例第 20 条の規定に基づき平成 17 年度に設置した「とよた森づくり委員会」は、平成 20 年度に次のような活動をしました。市は、今後も委員会と綿密に協議しつつ、十分に連携をとっていきます。なお委員会の資料・会議録は、市のホームページにすべて掲載してあります。

委員会名簿

【任期 H19.7.17～H21.7.16】

役 職	氏 名	所 属 等
会 長	岡本 譲	学識経験者
副会長	中根 芳郎	豊田森林組合代表理事組合長
委 員	板谷 明美	三重大学大学院生物資源学研究科准教授
委 員	稲垣 久義	矢作川水系森林ボランティア協議会副代表
委 員	大江 忍	NPO 法人「緑のネットワーク」理事長
委 員	大畑 孝二	(財)日本野鳥の会

委員	九澤十三夫	公募委員
委員	蔵治光一郎	東京大学大学院農学生命科学研究科講師
委員	澤田恵美子	豊田市消費者グループ連絡会会長
委員	鈴木 禎一	あさひ製材協同組合専務理事
委員	中泉 祐子	公募委員
委員	山本 薫久	NPO 法人「都市と農山村交流スローライフセンター」代表
委員	山本 輝夫	連合愛知豊田地域協議会事務局長
委員	和出 英俊	森林所有者

(注)委員はあいうえお順に掲載。

資料：森林課

委員会の開催状況

委員会	開催日	場 所	出席委員	協 議 事 項
第 1 回	5 月 26 日 (月)	間伐跡地等視察 豊田市森林会館	11 名	・ダウンベスト被害地の現状 ・高性能林業機械による利用間伐 ・森づくり会議及び団地の進捗状況等
第 2 回	9 月 22 日 (月)	豊田市森林会館	12 名	・豊田市森づくり白書 ・「あいち森と緑づくり税」等
第 3 回	11 月 28 日 (金)	豊田市森林会館	10 名	・地域森づくり会議の課題、進捗状況等 ・平成 19 年度事業報告 ・平成 21 年度予算
第 4 回	3 月 16 日 (月)	豊田市森林会館	13 名	・地域森づくり会議の進捗状況と課題 ・平成 20 年度林業関係事業の進捗状況 ・平成 21 年度森林課当初予算の概要

資料：森林課

委員勉強会の開催

委員会	開催日	場 所	出席委員	内 容
第 1 回	11 月 28 日 (金)	豊田市職員会館	10 名	地域森づくり会議代表者から現状等についての聞き取り

資料：森林課

2. 具体的施策(その 1) - 重点プロジェクト -

市は基本計画の中で、10 年間に 25,000ha の間伐を実施するという計画目標値を達成するために、次の 6 つのプロジェクトを重点プロジェクトと定め、平成 20 年は次のとおり各種事業を実施しました。

(1) 間伐推進プロジェクト

本プロジェクトでは、構想に基づく森林区分ごとに、各種の施策を活用して「切置き」「巻枯らし」「利用」の 3 種類の間伐を実施しました。

平成 20 年度に実施した間伐全体量は 1,276ha で、計画量に対して 83%の達成率に終わりました。前年度と比較しても 4 ha の減少となりました。市が直接実施する事業や上乘せ助成している公共造林推進事業と矢作川水源林対策事業は前年度より若干増加しましたが、保安林事業と県農林公社事業の減少が大きく影響しました。

来年度は、豊かな生命の森整備事業（あいち森と緑づくり税事業）が本格的に導入されることもあり、森林所有者に対する森づくり制度のPR強化、山主による自力間伐の推進、巻枯らし間伐の推進、高性能林業機械を駆使した利用間伐の推進など、県・市・森林組合の3者と県が協力してさらに間伐推進に力をいれていく必要があります。

間伐実施面積

(単位：ha)

区 分		H17	H18	H19	H20	H20～H29 累計目標値	
県等 実施事業	保安林事業	347	346	421	319	3,200	
	農林公社事業	254	151	106	87	2,500	
	豊かな生命の森 整備事業	奥地林	—	—	—	3	5,090
		公道沿	—	—	—	2	
	県有林事業	43	47	14	26	—	
小 計		644	544	541	437	10,790	
市等 補助対象	切置き	森林区分ABC	546	697	680	724	5,900
		森林区分D					3,310
	巻枯らし	森林区分D	—	—	3	5	2,000
	利 用	森林区分A	80	100	48	104	3,000
	小 計		626	797	731	833	14,210
自 力 施 業		0	10	8	6	—	
合 計		1,270	1,351	1,280	1,276	25,000	

(注)森林区分ABCDは100年の森づくり構想による。

資料：森林課・豊田森林組合

平成20年度豊田市予算に関わる間伐事業の実績

市は、県や(財)矢作川水源基金が実施する間伐補助事業に対する補助金の上乗せ、水源環境保全林整備事業等により、合計833haの間伐を実施しました。なお、市有林施業管理事業のうち38haは公共造林推進事業、水源環境保全林整備事業のうち60haは森づくり交付金事業の対象となりました。

平成20年度豊田市内間伐事業内訳

(単位：ha・千円)

	事業量	事業費	財 源 内 訳			
			国・県 補助金	市 費	(財)矢作川 水源基金	所有者 負担金
公共造林推進事業	431	115,589	65,882	39,696	0	10,011
矢作川水源林対策事業	197	30,076	0	12,691	14,260	3,125
巻枯らし間伐促進事業	0	0	0	0	0	0
水源環境保全林整備事業	97	9,613	0	9,613	0	0
市有林施業管理事業	108	13,986	4,672	9,314	0	0
合 計	833	169,264	70,554	71,314	14,260	13,136

資料：森林課

平成20年度間伐事業の市上乗せ補助率一覧表

事 業 名	補 助 対 象 経 費	補 助 率
矢作川水源林対策事業	(財)矢作川水源基金が定める水源林地帯対策事業業務方法書及び水源林対策事業助成金交付要領に準じ間伐に要する経費。	間伐率30%以上：9/10以内 間伐率40%以上（団地内）：10/10以内
間伐促進事業	県の定める森林造成等補助金交付要領及び造林事業実施要領に基づき、実施する間伐に要する経費。 ただし、間伐率30%以上の切置き間伐に限る。	間伐率30%以上：9/10以内 間伐率40%以上（団地内）：10/10以内 利用間伐：4/10以内

平成 20 年度間伐事業の市単独補助事業

事業名	補助対象経費	補助率
巻枯らし間伐促進伐事業	・巻枯らし間伐に要する経費。 ・間伐率は40%以上とする。	10/10 以内 (ただし針広混交誘導林のみ)

(2) 団地化促進プロジェクト

市は、地域における間伐事業の推進組織である「森づくり会議」及び実際に間伐を集団的に実施する「森づくり団地」の設定を間伐推進の最も重要な手法と位置付け、強力に推進することを決めました。各地で、地域説明会等を開催した結果、本年度は新たに 27 地域において森づくり会議を設立するとともに、20 団地を設定することができました。

森づくり会議の設立数と森づくり団地計画樹立面積

区分	H29 年度までの目標値	H20 年度末現在 設立数・面積	進捗率
森づくり会議設立数	231 地区	42 地区	18.2%
森づくり団地計画樹立面積	15,000ha	308.01ha	2.1%

資料：森林課

平成 20 年度に設立された森づくり会議

(単位：人)

No.	森づくり会議の名称	構成員(人)	設立年月日	会議の区域	地区
1	大野瀬地域森づくり会議	74	20. 4. 1	大野瀬町	稲武 2
2	大坪地域森づくり会議	38	20. 4. 1	大坪町	旭 5
3	二タ宮地域森づくり会議	25	20. 4. 1	二タ宮町	足助 2
4	黒坂地域森づくり会議	19	20. 4. 1	黒坂町	下山 10
5	新盛地域森づくり会議	7	20. 5. 1	新盛町、永野町	足助 3
6	小峰地域森づくり会議	10	20. 5. 1 20.11.10	小峯町 芳友町	豊田 1
7	久木地域森づくり会議	25	20. 5.15	久木町	足助 4
8	大和地域森づくり会議	20	20. 5.17	細田町、大井町、 北小田町	足助 5
9	明和地域森づくり会議	19	20. 5.10	五反田町・明川町・平沢 町の各一部	足助 6
10	御内地域森づくり会議	20	20. 5.15	御内町	足助 7
11	押井地域森づくり会議	27	20. 5.31	押井町	旭 6
12	立岩地域森づくり会議	17	20. 6.13	立岩町	下山 11
13	上切山地域森づくり会議	17	20. 6.22	上切山町	足助 8
14	梨野地域森づくり会議	20	20. 7. 1	梨野町	下山 12
15	西檜尾地域森づくり会議	28	20. 6.25	西檜尾町	足助 9
16	押山地域森づくり会議	41	20. 7. 1	押山町	稲武 3
17	菅生地域森づくり会議	20	20. 6.27	菅生町	足助 10
18	宇連野地域森づくり会議	13	20. 7.15	宇連野町	下山 13
19	日明地域森づくり会議	7	20.10. 1	坂上町の一部	豊田 2
20	川下地域森づくり会議	17	20. 9.20	川下町	小原 1
21	上八木地域森づくり会議	27	20.11. 8	上八木町	足助 11
22	川面地域森づくり会議	41	20.12. 1	川面町	足助 12
23	下切地域森づくり会議	35	21. 1. 4	下切町、三分山町の一部	旭 7
24	田代地域森づくり会議	20	21. 1.25	田代町	小原 2
25	栃立地域森づくり会議	8	21. 1.24	栃立町	下山 14
26	大桑地域森づくり会議	15	21. 3. 1	大桑町	下山 15
27	平瀬地域森づくり会議	12	21. 3.15	平瀬町	下山 16

平成 20 年度に設立された森づくり団地

(単位：ha)

地区名	森づくり会議名	団地名	認定面積
豊田	小峰	小峰	8.17
	日明	日明	8.28
小計	2	2	16.45
小原・藤岡	川下	坊坂	7.10
小計	1	1	7.10
足助	野林	第3西ノ洞	10.86
		第5塩平	8.70
	久木	久木1番	11.94
	明和	向田中平	11.83
小計	3	4	43.33
下山	羽布	エス小屋	54.57
	東大林	鎌地倉	5.40
		細田	9.57
	黒坂	大空第2	12.69
小計	3	4	82.23
旭	田津原	ソラ・上谷	18.50
		静滝	5.14
	榊野	能見	19.34
	加塩	1ブロック	5.66
小計	3	4	48.64
稲武	小田木	小田木本洞	40.48
		下りマキ	14.25
		井戸入、マセロ	38.35
	押山	大沢	9.78
		日向	7.40
小計	2	5	110.26
合計	14	20	308.01

地域説明会等の開催状況

市の森林施策や森づくり会議に関する情報を各地域に浸透するために、まず自治区長会及び地域会議において構想及び計画の概要を説明しました。さらに地域から要望のあった集落に対しては、地域集落説明会を開催し、職員が地域の特性に応じて作成したパワーポイントを活用して森林所有者への理解を深めました。こうした説明会を通じて、地域により、森林管理の方法や関心のあり方に大きな違いがあることがわかりました。今後は、さらに地域に密着した支援方法の確立が必要です。

・自治区長会

地区	足助、旭 (2地区)	回数と参加者	2回・延べ25名
内容	市が目指す森づくりの概要説明と森づくり会議設立の依頼		

・豊田森林組合(懇談会)

対象	豊田森林組合職員、地域組合員	回数と参加者	6回・延べ122名
内容	市が目指す森づくりの概要説明		

・地域集落説明会

地区	対象集落数 (地区)	説明会実施 集落数(地区)	進捗率 (%)	説明会実施 回数(回)	延べ参加 者数(人)
足助	63	33	52.4	34	347
下山	30	24	80.0	10	66
旭	38	16	42.1	21	349
稲武	13	10	76.9	16	214
小原・藤岡	41	14	34.1	8	85
旧豊田市	46	8	17.4	4	61
計	231	105	45.5	93	1,122

資料：森林課

(3) 林業労働力確保プロジェクト

林業労働者の高齢化・人材不足が課題となっているなか、市が目指す森林整備を確実に実行するためには、Iターン・Uターン者等を対象とした現場作業のプロ・セミプロの育成が必須な状況にあります。豊田森林組合は、愛知県下の森林組合の中では、最も有効に「緑の雇用担い手対策事業」を活用しており、若手の作業班員を順調に育成しています。

豊田森林組合の平成20年度の作業班員の現状

豊田森林組合は県下で最も多数の作業班員を抱えるとともに、若手作業班員の比率が高いのが大きな特徴です。

平成20年度豊田森林組合の作業班員の現状 (単位：人)

区分	20代	30代	40代	50代	60代	計
作業班員数	11	19	22	19	73	144

(注)嘱託作業員を含む。

資料：豊田森林組合

豊田森林組合の作業班員の推移 (単位：人)

区分	H17	H18	H19	H20
作業班員数	134	133	146	144

資料：森林組合の概要

緑の雇用担い手対策事業

愛知県森林組合連合会からの委託を受けて、豊田森林組合が事業を実施しました。なお、豊田森林組合(旧7組合)は、合併前の平成15年度より、積極的に本事業を活用しており、現在までに52名の研修生を受け入れ、そのうち48名が終了しました。また、38名が現在も作業班として活躍しています。

緑の雇用担い手対策事業に係る人材育成実績 (単位：人)

区分	H17	H18	H19	H20	計
研修生数	4	6	8	8	26
修了者数	4	5	7	6	22
作業班在籍数	4	5	7	6	22

資料：豊田森林組合

緑の人材活用森林整備事業

愛知県からの委託を受けて、豊田森林組合が事業を実施しました。なお、本事業は平成20年度で終了となりました。

緑の人材活用森林整備事業に係る人材育成実績 (単位：人)

区分	H17	H18	H19	H20	計
研修生数	4	13	8	4	29
修了者数	4	13	7	3	27
作業班在籍数	4	9	7	3	23

資料：豊田森林組合

とよた森林学校人材育成コースのセミプロ林業作業者育成講座

とよた森林学校の講座により、セミプロ的に林業作業を実施できる人材を養成しました。今後この講座の修了生が、前述の「緑の雇用担い手対策事業」と「緑の人材活用森林整備事業」へとステップアップしていくことが期待されます。

とよた森林学校セミプロ林業作業者育成講座の受講者実績 (単位：人)

講座名	年間講座回数(回)	受講者数		
		H18	H19	H20
セミプロ林業作業者育成講座	15	10	10	7

資料：森林課

林業労働者雇用安定事業

林業労働者を安定的に確保するためには、雇用条件を少しでも良好な状況にすることが必要です。そのため、市は、(財)愛知県林業振興基金が実施している退職金共済制度を活用する事業体への助成制度に上乗せして助成することにより、林業労働者の退職金共済制度への加入を促進しています。

退職金共済制度加入者数 (単位：人)

区分	共済制度加入者数			
	H17	H18	H19	H20
中小企業退職金共済制度(中退共)	53	40	50	55
林業退職金共済制度(林退共)	33	34	7	7
合計	86	74	57	62

資料：森林課

平成20年度退職金共済制度補助金の交付実績 (単位：人・円)

区分	対象者数	掛金総額	補助金額	補助率
中退共	55	3,255,000	2,170,000	2/3以内(市1/3・県基金1/3)
林退共	7	422,280	281,520	2/3以内(市1/3・県基金1/3)
合計	62	3,677,280	2,451,520	

資料：森林課

(4) 林業用路網整備プロジェクト

林業経営林においては、持続的に林業経営を行うために林業用路網の整備が必要です。市は基本計画の中で、従来の林道等の整備に加えて、新たに豊田市基準により、地域特性に合った林道・低コスト林道・作業道・搬出路の組み合わせにより、10年間で200kmの林業用路網の整備を進めることを定めています。

新規路網整備実績

平成20年度は基本計画に基づき利用間伐を推進するために、簡易な林業用路網である作業道と搬出路の整備に重点的に努めた結果、前年度と比較して、大幅に増加しました。

(単位：km)

区分	新規路網整備実績				H20～H29 新規整備目標値の累計	
	H17	H18	H19	H20		
林道	2.98	3.92	3.00	3.33	40	
低コスト林道	—	—	—	—	33	
作業道	造林事業	0.88	0.52	0	2.41	47
	水源基金	2.31	2.71	2.58	3.12	
搬出路	私有林	1.20	2.90	2.68	2.65	80
	市有林	—	—	2.39	2.82	
合計	7.37	10.05	10.65	14.33	200	

(注) 林道には市施工と県施行を含む。

資料：森林課

平成 20 年度林道整備事業

本年度に豊田市及び豊田森林組合が施工した林道の開設・舗装及び改良の実績は、次のとおりです。

・林道開設（市施工）

（単位：m・％・千円）

路線名称 全体計画	H20 延長	開設済延 長進捗率	事業費	財 源 内 訳		
				国・県 補助金	市 費	受益者 負担
入道線 L=1,500 W=4.0	324	657 43.8	14,200	9,466	4,734	0
平畑線 L=1,900 W=4.0	281	1,497 78.8	16,380	10,920	5,460	0
明和2号線 L=1,800 W=4.0	362	1,461 81.2	39,000	26,000	11,830	1,170
切山鑄師釜線 L=4,151 W=4.0	588	4,049 97.5	19,300	15,440	3,281	579
エス小屋2号支線 L=2,600 W=4.0	352	1,460 56.2	29,948	19,965	9,085	898
羽布下り沢1号支線 L=800 W=4.0	270	270 33.8	13,500	9,000	4,095	405
堤上知祖線 L=5,400 W=4.0	121	800 14.8	28,800	19,200	8,736	864
野入立野線 L=2,000 W=4.0	120	304 15.2	27,000	18,000	8,190	810
8路線 合 計	2,418		188,128	127,991	55,411	4,726

資料：森林課

・林道舗装事業（市施工）

（単位：m・％・千円）

路線名称 全体計画	H20 延長	舗装済 延長	進捗率	事業費	財 源 内 訳	
					国・県 補助金	市費
浅野線 L=9,200 W=4.0	816	2,383	25.9	19,200	5,760	13,440
入道線 L=1,500 W=4.0	124	350	23.3	2,647	1,600	1,047
田代3号線 L=798 W=3.0	440	705	88.3	8,500	5,666	2,834
池島御蔵線 L=4,041 W=4.0	62	4,041	100.0	2,340	1,560	780
大河原線 L=1,838 W=3.0	523	543	29.5	6,800	4,533	2,267
羽布下り沢線 L=10,136 W=4.0	1,419	7,547	74.5	36,400	10,920	25,480
ウネ畑線 L=2,798 W=4.0	476	1,728	61.8	10,101	6,734	3,367
保戸嶋線 L=3,178 W=4.0	396	396	12.5	8,500	5,666	2,834
梶呂畑線 L=3,622 W=3.0	277	3,005	83.0	4,800	3,200	1,600
大ドヤ線 L=1,844 W=3.0	172	1,637	88.8	2,700	1,800	900
10路線 合 計	4,705	22,335		101,988	47,439	54,549

資料：森林課

・林道舗装事業（豊田森林組合施工）

（単位：m・%・千円）

路線名称 全体計画	H20 延長	舗装済 延長	進捗率	事業費	財源内訳	
					県補助金	市補助金
小田木本洞線 L=4,025 W=4.0	735	3,967	98.6	19,800	13,200	6,600
大洞線 L=4,402 W=4.0	758	3,362	76.4	19,500	13,000	6,500
合計	1,493	7,329		39,300	26,200	13,100

資料：森林課

・林道改良事業（市施工）

（単位：m・千円）

路線名称	H20 延長	主な工種	事業費	財源内訳	
				県費	市費
鍛冶屋敷2号線	36	法面保護	3,300	1,980	1,320
田代線	9	法面保護	1,500	900	600
樽俣線	11	法面保護	2,000	1,200	800
平畑線	50	法面保護	4,500	2,700	1,800
竜岡伊勢神線	23	法面保護	3,600	2,400	1,200
北ノ平線	53	法面保護	3,600	2,400	1,200
明和線	20	法面保護	3,000	1,800	1,200
武瀬田2号線	20	路肩保護	1,500	900	600
奥山3号線	23	法面保護	3,000	1,800	1,200
藤立線	15	路肩保護	2,000	1,200	800
羽布下り沢線	28	法面保護	2,400	1,600	800
茶臼山線	20	路肩保護	2,387	1,200	1,187
池島御蔵線	81	法面保護	3,600	2,400	1,200
浅野線	87	法面保護	3,300	1,980	1,320
野入月ヶ平線	48	法面保護	7,500	5,000	2,500
14路線 合計	524		47,187	29,460	17,727

資料：森林課

・林道改良事業（豊田森林組合施工）

（単位：m・千円）

路線名称	H20 延長	主な工種	事業費	財源内訳	
				県補助金	市補助金
寺洞浦山線	24	路肩保護	2,920	1,752	1,168
大見山線	22	法面保護	8,650	5,190	3,460
月ヶ平線	193	舗装改良	2,680	1,608	1,072
月ヶ平支線	7	路肩保護	1,730	1,038	692
4路線 合計	246		15,980	9,588	6,392

資料：森林課

平成20年度作業道整備事業

・矢作川水源林対策事業（豊田森林組合施工）

本年度に、(財)矢作川水源基金の補助事業を活用して、豊田森林組合が施工した作業道開設の実績は、次のとおりです。

（単位：m・千円）

路線名称	地区	延長	幅員	事業費	財源内訳		
					市補助金	水源基金	市補助金
爺ヶ洞西垣内線	旭	504	3.0	3,740	1,384	2,244	112
井ノ入支線	稲武	294	3.0	2,273	841	1,364	68
フジマキ3号線	下山	1,008	3.0	8,089	2,993	4,853	243
野入大ナギ線	稲武	636	3.0	5,517	2,041	3,310	166
八郎線	足助	678	3.0	4,909	1,816	2,946	147
5路線 合計		3,120		24,528	9,075	14,717	736

資料：森林課

・間伐材搬出路網(作業道)開設事業(豊田森林組合施工)

本年度、従来からあった間伐材搬出路網開設事業に新たに作業道を加え、森林組合が5路線2.58kmを開設しました。

(単位：m・千円)

路線名称	地区	延長	幅員	事業費	財源内訳	
					市補助金	受益者負担
不動沢線	稲武	1,007	3.0	6,765	6,562	203
雑ヶ入越田和線	旭	650	3.0	6,183	5,998	185
明和2号支線	足助	381	3.0	3,769	3,656	113
能見線	旭	116	3.0	861	835	26
丸山線	旭	260	3.0	2,422	2,349	73
合計		2,414		20,000	19,400	600

資料：森林課

平成20年度搬出路整備事業(豊田森林組合施工)

本年度に市の補助金を活用して、豊田森林組合が施工した搬出路開設の実績は、次のとおりです。また、この他に市有林で2,820m、林業振興基金補助金を使って2,070m、愛知県農林公社事業で1,525mの搬出路を開設した結果、全部で9,069mの搬出路を整備できました。

・間伐材搬出路網(団地内・高性能林業機械施業)

(単位：m・千円)

施工地	地区	延長	幅員	事業費	補助率	財源内訳	
						市補助金	受益者負担
羽布町	下山	780	2.5	1,170	2/3	780	390
東大林町	下山	220	2.5	330	2/3	220	110
東大林町	下山	200	2.5	300	2/3	200	100
合計		1,200		1,800		1,200	600

資料：森林課

・間伐材搬出路網(自力)

(単位：m・千円)

施工地	地区	延長	幅員	事業費	補助率	財源内訳	
						市補助金	受益者負担
千田町	足助	350	1.5	210	30	63	147
和合町	豊田	560	1.5	336	30	101	235
合計		910		546	30	164	382

資料：森林課

・間伐材搬出路網(団地外)

(単位：m・千円)

施工地	地区	延長	幅員	事業費	補助率	財源内訳	
						市補助金	受益者負担
押山町	稲武	149	2.5	224	30	67	156
旭八幡町	旭	180	2.5	270	30	81	189
牛地町	旭	89	2.5	133	30	40	93
細田町	足助	126	2.5	189	30	57	132
合計		544		816		245	571

資料：森林課

過疎山村地域代行林道整備事業（愛知県施工）

市内で愛知県が直接開設した林道の実績は、次のとおりです。

(単位：m)

路線名称 全体計画	開設延長			開設済延長	進捗率 (%)
	H18	H19	H20		
羽布下り沢線 L=10,136 W=4.0~5.0	1,069	—	—	10,136	100.0
河上瀬柏洞線 L=9,300 W=4.0	479	578	445	6,491	69.8
浅野線 L=9,200 W=4.0~5.0	346	509	469	5,635	61.3
3路線 合計	1,894	1,087	914	22,262	

資料：森林整備課

(5) 素材生産の効率化・低コスト化プロジェクト

木材価格の長期低迷や人件費の上昇等により、人工林の採算性が悪化し、結果的に間伐遅れの森林が増加しています。特に林業経営林の間伐を推進するためには、素材生産経費のコストダウンが必要だと考えられます。市は林業事業体の高性能林業機械導入に対して助成策を講じています。

豊田森林組合の高性能林業機械保有数

豊田森林組合は、平成12年度から(財)愛知県林業振興基金が購入した高性能林業機械をレンタルにより使用してきましたが、それに加えて平成20年度は3台の高性能林業機械を購入しました。

(単位：台)

機械名称	H17	H18	H19	H20
スイングヤーダ	2(2)	2(2)	2(2)	3(2)
プロセッサ	2(2)	3(3)	3(3)	4(3)
フォワーダ	2(2)	2(2)	2(2)	3(2)
タワーヤーダ	1(1)	2(2)	2(2)	2(2)
合計	7(7)	9(9)	9(9)	12(9)

(注)()内は県林業振興基金からのレンタルで内数。

資料：豊田森林組合

高性能林業機械を活用した間伐施業（豊田森林組合施業）

豊田森林組合が平成20年度に実施した利用間伐の面積とその素材生産量、及びそのうち高性能林業機械を使用した列状間伐により実施した間伐面積及びその素材生産量は次のとおりです。

(単位：ha・m³)

	施業実績		
	H18	H19	H20
利用間伐面積	—	100	116
うち高性能林業機械使用	51	50	81
間伐に伴う素材生産量	8,000	12,899	14,035
うち高性能林業機械使用	3,320	6,826	6,912

資料：豊田森林組合

高性能林業機械施業促進補助金

市は、(財)愛知県林業振興基金から高性能林業機械をレンタルで使用している豊田森林組合に対して、利用料の1/2を助成しています。

(単位：台・千円)

区分	H17	H18	H19	H20
対象台数	7	9	9	9
補助金額	2,211	2,247	2,475	2,214

資料：森林課・豊田森林組合

高性能林業機械導入費補助金

市は豊田森林組合が国庫補助事業を受けて購入する高性能林業機械（スイングヤーダ・プロセッサ・フォワーダ各1台）に対して、事業費の3/10を上乗せ助成しました。

平成20年度 高性能林業機械導入費補助金の交付実績

(単位：台・千円)

区 分	台数	購入金額	補助金		
			市補助金	国補助金	組合負担金
ハーベスタ	1	19,900	5,970	9,950	3,980
スイングヤーダ	1	17,000	5,100	8,500	3,400
フォワーダ	1	10,900	3,270	5,450	2,180
合 計	3	47,800	14,340	23,900	9,560

資料：森林課・豊田森林組合

山間地営農等振興費補助金

市は豊田森林組合が愛知県山間地営農等振興事業を受けて購入する作業道整備用機械及び運搬車両(バックホウ・トラック各1台)に対し、事業費の3/10を上乗せして助成しました。

(単位：台・千円)

区 分	台数	事業費	県 費	市 費	組合負担
作業道整備用機械(バックホウ)	1	10,900	5,450	3,270	2,180
運搬車両(トラック)	1	11,580	5,790	3,474	2,316
合 計	2	22,480	11,240	6,744	4,496

資料：森林課・豊田森林組合

(6) 木材利用促進プロジェクト

今後、国内の木材資源は年々充実していき、間伐の推進等により素材生産量も増加が見込まれます。間伐を一層促進するためには、木材を利用することが重要となります。そこで、市は公共施設における地域材あるいは国産材の使用を促進するとともに、間伐材の出荷を奨励するために助成措置を講じています。

市の公共事業における国産材の使用量

市は、公共施設などに地域材あるいは国産材を使用して、木材の良さをPRしていきます。

市公共事業の国産材使用量

(単位：m³)

用 途	使 用 量				目標値 H24 600
	H17	H18	H19	H20	
建設用資材	129.32	193.55	271.48	290.73	600
建築等用材	272.46	89.27	217.04	101.29	
チップ材	15.30	165.20	0.24	316.19	
合 計	417.08	448.02	488.76	708.21	

資料：技術管理課



間伐材を利用した花壇づくり(上郷)



浄水駅地下通路の壁材、間伐PR

間伐材市場出荷奨励事業

小径の間伐材は木材価格に比較すると人件費を要し採算性が低いことから、間伐材の出材を促進するため、豊田森林組合の木材センターに出荷された間伐材について、出荷者及び森林組合に対して助成措置を講じています。

(単位：m³・千円)

区 分	事 業 実 績			
	H17	H18	H19	H20
補助対象出荷素材量	1,561.3	1,876.2	2,463.3	2,419.9
間伐材市場出荷奨励補助金	2,682	3,290	4,298	4,130

資料：森林課

3. 具体的施策(その2) - その他の主要な施策 -

(1) 森林の現況把握に関する施策

現在、森林の現況を把握するデータとしては、県作成の森林簿と森林計画図、市作成の航空写真及び土地台帳の4種類がありますが、互換性がないうえに、その一元管理もまだ出来ていません。市は平成19年度より豊田市独自の森林GISの導入に取り組んでいますが、今後は地籍調査の実施が期待されます。

森のカルテ作成事業(豊田森林組合事業)

現在、森林施策の基礎となる森林現況の把握が十分ではありません。将来的には地籍調査の実施が期待されますが、とりあえず人工林の現状を調査・把握し、データ収集するとともに、森林所有者にも現況を認識してもらうことを目的として、市は平成17年度より「森のカルテ作成事業(人工林の診断書の作成)」を実施しており、森林組合が実施する森のカルテ作成事業に要した経費の1/2を助成しています。

<森のカルテ作成事業実施状況>

(単位：ha・箇所)

区 分	H17	H18	H19	H20	累計
調査対象面積	234.00	423.93	320.89	319.00	1,297.82
森のカルテ調査箇所数	468	751	606	620	2,445

資料：森林課

森のカルテ作成事業補助金の交付実績

(単位：千円)

区 分	事 業 費	補 助 率	
		うち市補助金	
H17	10,048	5,000	1/2 以内
H18	7,915	3,958	
H19	6,032	3,016	
H20	5,049	2,500	

資料：森林課

森林GISの導入

市は、独自の豊田市版森林GISの導入を目指して、平成19年度は専門業者に委託して、機能等についての基礎的な仕組みを決定しました。さらに、平成20年度は、基本システムの導入等について委託しました。

(単位：千円)

委託業務名	委託料	内 容
豊田市森林GIS開発導入業務委託	9,765	市森林GIS稼働に向けての基本システム開発導入及びシステム詳細設計

(2) 木材以外の森林資源の活用に関する施策

森林から得られるさまざまな林産物は、将来的には大きな地域資源となることが期待されます。これらの取組みは、民間事業者・地域住民・NPO等が事業主体となります。

林床栽培園設置推進事業

市は、平成 17 年度より林床を活用して、キノコ・花木・山菜などを栽培する団体に対し助成をしています。平成 20 年度は原木マイタケを栽培する 1 団体に補助金を交付しました。

(単位：円)

年 度	補助金交付団体数	補助金交付額	補 助 率
H17	1	2,305	3/10 以内
H18	2	200,000	
H19	2	185,535	
H20	1	39,150	

資料：森林課

(3) とよた森林学校に関する施策

市は、森林・林業に関わるさまざまな人材の育成と一般市民への普及を目的として、平成 18 年度に、市町村としては全国初の事例となる「とよた森林学校」を開校しました。

講座内容は市が企画し、運営は豊田森林組合に委託しており、平成 20 年度は 16 の講座を実施するとともに、事務局が自主的に企画・運営する事務局企画講座を 5 回、フォローアップ研修を 5 回開催しました。さらに、学校等からの依頼に基づき森林課職員が講師を勤める出前講座を 52 回開催しました。また、平成 21 年 3 月 22 日(日)には勘八市有林と保見交流館で「とよた森林学校 3 周年記念行事」を開催しました。

今後は、さらに新しい参加者を迎えるための PR 強化と、講座内容の充実が必要となります。本年度もほとんどの講座で定員を越える応募があり、市民の関心の高さがうかがわれました。

森林活動に関わる人材の育成(人材育成コース)

間伐を実施したり、森林自然観察会で指導する人材の育成を目的として、次の 7 講座を開催しましたが、多くの全講座で定員を上回る応募がありました。

(単位：日・人)

人材育成コース (7 講座)	年間開催 講座日数	受 講 者 数		
		H18	H19	H20
素人山主 森林経営講座	9	12	13	15
自然観察リーダー 養成講座	9	9	11	15
森林ふれあい講座	6	-	15	9
間伐ボランティア初級講座	3	20	20	20
セミプロ林業作業員 養成講座	15	10	10	7
間伐技術 ステップアップ講座	9	10	9	8
自力山主 間伐講座	5	-	-	9
合 計	56	61	78	83

資料：森林課

森の応援団の育成 (森の応援団コース)

一人でも多くの市民の方々に、森林の現状や課題、森林の楽しみ方などについて関心を持っていただくことを目的として、次の 9 講座を開催しました。ほとんどの講座で定員を上回る応募がありました。

(単位：日・人)

森の応援団コース (9 講座)	年間開催 講座日数	受 講 者 数		
		H18	H19	H20
森林セミナー	4	60	48	40
間伐してベンチを作り寄付しよう	4	15	16	15
矢作川源流の山を歩こう	3	25	20	20
原木マイタケを育て料理しよう	2	39	19	16
原木きのこづくり II	1	20	11	20
子ども森林自然教室	2	23	14	22
樹木分類教室	3	20	49	20

森の達人を訪ねて	3	—	23	21
木づかい住宅勉強会	3	29	18	24
合 計	25	231	218	198

資料：森林課

事務局企画講座

森林学校の正規講座以外に、事務局が独自に企画・運営する自主企画講座を5回開催しました。森林学校卒業生に対するアフターケア講座の開催が期待されます。

(単位：回・人)

講 座 名	講座回数	受講者数
春を見つけよう 森の観察会	1	19
木曾ヒノキ天然林見学ツアー	1	23
ムササビ観察会	1	22
簡易製材機安全取扱い講習会	1	23
暖帯性樹林観察会 伊勢神宮外宮の森を訪ねて	1	41
合 計	5	128

資料：森林課

フォローアップ研修

森林学校の人材育成コース卒業生に対して、その技術レベルの維持と、さらなる技術向上のためにフォローアップ研修を5回開催しました。卒業生に新しい知識・技能を付与するためには、こうしたアフターケア講座が必要です。

(単位：日・人)

講 座 名	講座回数	受講者数
間伐実習①（間伐ボランティア初級講座）	1	9
間伐実習②（間伐ボランティア初級講座）	1	11
自力山主間伐講座	1	6
素人山主森林経営講座	1	8
19年度素人山主森林経営講座	1	6
合 計	5	40

資料：森林課

出前講座の開催

平成20年度は、市内の小学校を中心として、森林観察や間伐体験等の要望に応じて、森林課職員が講師を務める出前講座を16団体、延べ52回開催しました。

(単位：回・人)

年 度	申込み 団体数	年間延べ 開催数	延べ 参加者数	派遣職員 延べ人数	内 容 等
H18	15	39	1,017	48	森の自然観察、間伐体験、森のはたらき学習会など
H19	18	35	1,054	52	
H20	16	52	1,433	72	

資料：森林課

事務局・スタッフの体制

校 長	外部から選任（島崎洋路 元信州大学教授）
副 校 長	豊田森林組合代表理事組合長
事務局長	豊田森林組合総務担当常務理事
事 務 局	豊田森林組合職員（3名）
	NPO法人都市と農山村の交流スローライフセンター（2名）

とよた森林学校運営検討委員会

とよた森林学校の在り方や今後の方向性、及び円滑な運営や講座内容などについて検討する運営検

討委員会を2回開催しました(9月24日、3月25日)。

<とよた森林学校運営検討委員会の構成員>

	氏名	団体等の名称	役職名等
1	島崎 洋路	とよた森林学校	校長
2	芝野 博文	東京大学大学院愛知演習林	演習林長
3	中根 芳郎	豊田森林組合	代表理事組合長
4	稲垣 久義	矢作川水系森林ボランティア協議会	副代表
5	大畑 孝二	豊田市自然観察の森	所長
6	西川 まり子	とよた森林学校受講者代表	自然観察リーダー養成講座
7	小林 勝	とよた森林学校受講者代表	素人山主森林経営講座
8	原田 裕保	豊田市産業部森林課	課長
オブザーバー			
9	高橋 常昭	愛知県豊田加茂農林水産事務所森林整備課	課長

資料：森林課

(4) 山村地域の活性化と文化の伝承に関する施策

平成20年度は、特別な事業は実施していませんが、今後は、とよた森林学校の講座において、文化の伝承等に関する内容を取り入れていくことを検討します。

(5) NPO・森林ボランティア等との共働による森づくりに関する施策

豊田市を中心とした矢作川流域は、全国的に見ても人工林活動を主とした森林ボランティア活動が盛んな地域のひとつです。市は、こうした森林ボランティアやNPOの方々、さらに流域に生産拠点を有する企業などと連携を深めて、相互理解のもとに、共働による森づくりを推進していきます。

「森林活動の森・大洞」の推進

市有林の中から、市民等で構成されるグループが計画的に間伐や自然観察などの森林活動を実施する場を提供することを目的として、平成20年度から大洞市有林(64ha)を「森林活動の森・大洞」として事業展開し、3団体が活動を行いました。

森林ボランティア活動の支援

市内の人工林を活動場所としている森林ボランティアは、平成20年度末現在で6団体あります。さらに、とよた森林学校の修了生などから構成されたグループが新たに結成されることも予想されます。市としては、森林ボランティアが自立の精神を持って活動できるような支援をしています。

・森林ボランティア始動支援補助事業

森林ボランティアグループが活動を始めるに当たっては、いろいろな活動用具などの整備が必要となります。市は、平成17年度よりそうした団体に対して、初動の2年間に限り、助成を行っています。

(単位：人・円)

年度	補助対象団体数	構成員数	補助金交付額
H17	2	35	210,467
H18	2	35	175,000
H19	3	45	200,000
H20	2	31	200,000

資料：森林課

・森林ボランティア安全対策補助事業

活動に伴う傷害保険の加入を促進するための補助事業を、18年度より実施しています。

(単位：人・円)

年 度	補助対象団体数	構成員数	補助金交付額	補 助 率 等
H17	—	—	—	ボランティア保険料の 1/2 以内
H18	2	44	204,486	
H19	7	167	462,535	
H20	6	107	277,730	

資料：森林課

企業・団体の森づくり活動に対する支援

・みどりの少年団活動補助事業

平成19年度より本事業の所管が公園課から森林課に移管されたことから、市内の7団体に対して助成を行いました。

(単位：人・円)

年 度	補助対象団体数	構成員数	補助金交付額	補 助 率 等
H17	(3)	(68)	(224)	上限 100 千円 20年度実績 足助・築羽・花山・土橋 堤・稲武・六所山の各少 年団
H18	(6)	(400)	(540)	
H19	7	405	700	
H20	7	399	700	

(注)H17、18年度実績数字は、公園課資料による。

資料：森林課・公園課

・企業等と共働した森づくり

近年、市内外の企業が市内で森づくり活動を求める事例がいくつか見られます。例えば、系列会社が所有する山林で各種の森林活動をイベントとして開催する事例、市有林を利用して間伐活動を行う事例などがあります。今後もこうした要望は増加すると考えられることから、「森林活動の森・大洞」を始めとした市有林の活用を中心として対応していきます。

とよた森づくりの日ととよた森づくり月間における普及啓発活動

市は、条例第16条第2項で、10月を「とよた森づくり月間」、10月26日を「とよた森づくりの日」と決めました。森づくりに関する普及啓発は、とよた森林学校や日常の活動等でも行いますが、本年度はこの期間に、次のとおり集中的に各種行事を実施しました。

・とよた森づくりの日に実施したイベント活動

(単位：人)

	イベント名	開催日時	開催場所	参加者	内 容
下山 会場	よってらっ祭みてらっ祭	10月25日 26日	下山支所	850	木工教室(木ぼっくり) クイズラリー
	人工林・巨木見学ツアー	10月26日	立岩市有林 下山支所	40	人工林・巨木ツアー よってらっ祭みてらっ 祭会場見学
小原 会場	秋を見つけよう森の観察会		大洞市有林	49	自然観察会 間伐体験・森林調査
	間伐体験教室				
足助 会場	間伐事業地見学ツアー		押井等	50	高性能林業機械の作業 見学
	チェンソー目立て講習会		豊田森林組合	20	チェンソー目立て 講習会
	森づくり講演会	150		講演「国産材の需要動 向と各地の動き」	
合 計				1,159	

資料：森林課

・とよた森づくり月間（10/1～10/31）普及啓発活動

（単位：人）

普及啓発活動	開催日時	開催場所	参加者	内 容
PR横断幕の掲示	9月26日 10月31日	豊田市役所 歩道橋通路	—	
産業フェスタ	9月27日 28日	豊田スタジアム	580	木工工作(木ぼっくり)
ものづくりフェスタ	10月5日	トヨタスポーツセンター	200	木工工作 (豊田市産材のえんぴつ作り)
一日林業入門塾・ ふるさと森林相談会	10月12日	豊田産業文化センター	60	地域不在の森林所有者に林業の 基礎知識、各種助成等の説明
ALL TOYOTA Big Holiday	10月18日	トヨタスポーツセンター	300	木工工作 (豊田市産材のえんぴつ作り)
森の健康診断報告会	10月18日	岡崎市福祉会館	160	シンポジウム等
合 計			1,300	

資料：森林課

・市が主催する森づくり普及啓発活動

森づくりに関する普及啓発を推進するため、公募により次のイベントを開催しました。

普及啓発活動	開催日時	開催場所	参加者	内 容
巻枯らし間伐体験	8月26日	御内市有林	21人	巻枯らし間伐体験 森林自然観察

資料：森林課

（6）事業計画・事業評価に関する施策

市は、基本計画の中で、間伐実施・間伐手法・林業用路網整備に関してモニタリングを実施することを定めています。このうち平成20年度は、平成19年度に引き続き林道調査整備事業と林道管理調査事業を活用して、次のとおり調査しました。

また、間伐に関するモニタリングについては、平成20年度から平成31年度にかけて間伐手法ごとに下層植生の回復調査を実施していく計画で、初年度の平成20年度は25ヶ所の調査地を設定し、間伐前の植生調査及び林分調査を実施しました。

林業用路網整備に関する調査

・林道調査整備事業

（単位：ha・千円）

年度	調査地区	調査対象森林面積	調査対象林道	事業費
H18	下山地区	120	羽布下り沢線	3,000
H19	足助地区	140	竜岡伊勢神線	4,000
H20	下山地区	277	陣手線	3,500
H20	稲武地区	235	タワガネ線	3,000
H20	足助地区	195	北ノ平線	3,500

資料：森林課

・林道管理調査事業

（単位：路線・m・千円）

年度	調査地区	調査対象路線数	調査対象林道総延長	事業費
H19	藤岡・小原・旭	75	104,198	9,913
H20	豊田・足助・下山・稲武	133	258,712	13,125

資料：森林課

間伐モニタリング調査

間伐方法・間伐率・植栽樹種・成立本数等によって、間伐後の下層植生の回復状況がどのように異なるかを現地で追跡調査することにより、適正な間伐率などを確定するのが間伐モニタリング調査で

す。そのため、平成 20 年度より 3 年間で 75 ヶ所の調査地を設定し、間伐後 3 年毎に植生調査と林分調査を実施して、その変化を調べていきます。平成 20 年度は 5 市有林にて 25 ヶ所の調査プロットを設定しました。

調査区の設定後は、次のとおり 1 箇所につき 4 回の調査を実施していく予定です。

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
H20 設定	○ 間伐前			○ 1 回目			○ 2 回目			○ 3 回目		
H21 設定		○ 間伐前			○ 1 回目			○ 2 回目			○ 3 回目	
H22 設定			○ 間伐前			○ 1 回目			○ 2 回目			○ 3 回目

資料：森林課

4. 管理業務

市は、今まで述べてきた基本計画に基づく各種施策の他に、次のような管理業務を実施しています。

(1) 伐採届の受理

森林法第 10 条の 8 の規定に基づく届出及び同法第 15 条に基づく届出を受理した実績は、次のとおりです。

<伐採届の届出件数と届出面積>

(単位：件・ha)

区分	H17		H18		H19		H20	
	届出件数	届出面積	届出件数	届出面積	届出件数	届出面積	届出件数	届出面積
主伐	44	11.56	41	7.76	24	21.54	119	98.07
間伐	660	729.42	1,024	647.78	958	488.42	652	611.97
転用伐採	106	57.81	80	20.67	133	34.12	63	18.92
計	810	798.79	1,145	676.21	1,115	544.08	834	728.96

資料：森林課

(2) 豊田市森林会館の管理

平成 20 年度に、森林課が所管する豊田市森林会館の会議室等を利用した実績は、次のとおりです。以前に比較して平成 19 年度以降大幅に増加しているのは、とよた森学校の講座で利用したことによるものです。

豊田市森林会館の利用件数と利用者数 (単位：件・人)

年 度	利用件数	利用者数
H17	32	775
H18	29	751
H19	38	962
H20	41	993

資料：森林課



資料：森林課・豊田森林組合

(3) 市有林の管理

県林業統計書では豊田市内には 1,637ha の市有林があり、そのうち森林課が所管する市有林は、約 1,227ha あります。しかし、これらの市有林の中には、境界が明確でないものや、森林現状が明確でないものが数多く含まれています。そのため市は、平成 17 年度から平成 18 年度の 2 年間で、豊田森林組合に委託して「市有林長期森づくり計画」を策定しました。さらに、平成 17 年度から平成 21 年度にかけて市有林の「森のカルテ」を順次作成し、その森林現状を把握するとともに、平成 18 年度

より「市有林境界確定測量」も順次実施しています。これらの管理事務が完了して初めて、市有林の現状が明らかになります。また、平成20年度には、造林補助事業の助成も受けて、108haの間伐等を実施し、2,862 m³の素材を生産しました。

市有林で実施した間伐の実績

年 度	施業箇所	施業面積	事 業 費		備 考
			うち国・県補助金		
H17	13箇所	44.27ha	15,635千円		切置き間伐 34.79ha 利用間伐 3.64
			206		
H18	15	62.02	45,676		切置き間伐 27.69 利用間伐 31.32
			4,241		
H19	10	38.60	31,877		切置き間伐 16.58 利用間伐 16.04 巻枯らし間伐 3.32
			10,328		
H20	12	91.89	44,222		切置き間伐 44.21 利用間伐 43.13 巻枯らし間伐 4.55
			4,673		

資料：森林課

平成20年度の市有林区域別の施業実績

市有林	施業区分	施業面積(ha)	事業費(千円)		素 材 生 産		備考
			うち国・県補助金		搬出量(m ³)	販売額(千円)	
御内	切置き間伐	6.58	1,865		—	—	
			868				
城山	巻枯らし間伐	4.55	907		—	—	
			316				
御内	支障木伐採	0.06	64		—	—	
			—				
二夕瀬	支障木伐採	0.03	30		—	—	
			—				
井山	切置き間伐	9.65	2,482		—	—	
			693				
上川口	切置き間伐	5.57	1,432		—	—	
			734				
二夕瀬	切置き間伐	6.80	1,749		—	—	
			—				
四ツ松	切置き間伐	9.40	2,418		—	—	
			1,240				
奥山	切置き間伐	6.21	1,597		—	—	
			819				
大多賀	利用間伐	9.29	2,030		214 (スギ 88) (ヒキ 126)	2,362	機械施業
			—				
大多賀	利用間伐	6.64	7,862		743 (スギ 314) (ヒキ 429)	9,162	機械施業 搬出路開設 (1,160m)
			—				
御内	利用間伐	9.54	14,677		1,246 (スギ 790) (ヒキ 430) (マツ 23) (サワ 3)	14,644	機械施業 搬出路開設 (960m)
			—				
四ツ松	利用間伐	15.13	5,339		419 (スギ 115) (ヒキ 304)	5,113	機械施業 搬出路開設 (700m)
			—				

奥山	利 用 伐	2.53	1,763	240 (スギ 6) (ヒキ 40) (サラ 1) (搬出残材 193)	2,245	機械施業
			—			
計		91.98	44,221	2,862 (スギ 1,313) (ヒキ 1,329) (マツ 23) (サラ 4) (搬出残材 193)	33,525	搬出路開設 2,820m
			4,672			

資料：森林課

市有林の素材生産量

(単位：m³・千円)

年度	販売材積	販売額	備 考
H17	330	5,068	間伐 209m ³ 支障木伐採 120m ³
H18	2,529	38,423	間伐 2,323m ³ 支障木伐採 206m ³
H19	2,173	27,664	間伐 1,787m ³ 支障木伐採 118m ³ 皆伐 268m ³
H20	2,862	33,525	間伐 2,862m ³

資料：森林課

市有林境界確認業務

(単位：m²・千円)

年度	確認市有林	台帳面積	実測面積	立会件数	事業費
H18	二タ瀬	183,971	334,718	18	9,135
H19	黒坂②	305,690	278,697	17	10,080
	田螺池②	59,680	59,413	22	
H20	大洞	529,160	601,864	25	16,275

資料：森林課

市有林現況調査業務（豊田森林組合委託）

(単位：箇所・千円)

年度	森のカルテ作成	事業費	対 象 市 有 林
H17	318	3,034	中之御所、御所山、総山、三ツ足、岩神、大多賀、下平、西檜尾、御蔵、四ツ松、月原、伊勢神、東大見 約250ha
H18	320	3,045	奥山、乗越、長坂、テラゲ、峰洞、アラタ、二タ瀬①②、草木、黒坂①②、田螺池①②、和合、御内1林班、御内2林班 約250ha
H19	256	2,992	大洞、城山、井山、牛地、御内5林班、御内6林班 約255ha
H20	233	2,888	御内3林班、御内4・7林班、木瀬、西市野々、北曾木、稽古屋、黒田湖畔(西)(東)、チソ 約233ha
計	1,127	11,959	

資料：森林課

(4) 林道維持管理

平成 20 年度に、市が管理する林道における崩土撤去などの修繕工事を次のとおり実施するとともに、豊田森林組合が管理する林道の修繕工事に対して助成しました。

管理の状況

・市管理林道

年 度	修 繕 路線数	延べ 修繕箇所	事 業 費 (千円)	主 な 修 繕 内 容
H17	29 路線	37 箇所	13,716	崩土撤去等
H18	39	63	21,329	崩土撤去等
H19	28	38	11,550	崩土撤去 12 件 路面補修 7 件 路肩保護 10 件 排水処理 5 件 施設設置 1 件 法面補修 3 件
H20	27	40	18,681	崩土撤去 8 件 路面補修 7 件 路肩保護 10 件 排水処理 9 件 施設設置 4 件 法面補修 2 件

資料：森林課

・豊田森林組合管理林道

年 度	修 繕 路線数	延べ 修繕箇所	事業費 (千円)		主 な 修 繕 内 容
			うち市費補助金		
H17	10 路線	31 箇所	3,015		崩土撤去 1 件 路面補修 8 件
			3,000		路肩保護 1 件 排水処理 22 件
H18	4	4	4,159		崩土撤去 1 件 路面補修 2 件
			3,000		路肩保護 1 件 排水処理 1 件
H19	7	14	3,800		崩土撤去 2 件 路面補修 7 件
			3,000		路肩保護 5 件 排水処理 1 件
H20	8	12	3,246		崩土撤去 3 件 路面補修 5 件
			3,000		路肩保護 2 件

資料：森林課

林道パトロール

平成 19 年度から、市内の林道の状況を把握するとともに、通行の安全を確保と簡易な修繕を行なうため林道パトロールを開始しました。平成 20 年度は 4 名のパトロール員が在籍し、2 名 1 組で、市内約 367km の林道を巡回しました。

5. 講演、視察受入等の森づくり推進活動

平成 17 年度の市町村合併と同時に新たに森林課を設置するとともに、条例・構想・基本計画により明確な森づくり指針を建て、多くの独自施策も実施している豊田市は全国的にも注目を浴びており、平成 20 年度も各方面より講演・視察や執筆の依頼がありました。また、印刷物の出版やテレビ番組への出演等も積極的に行い、森づくりの PR に努めました。

(1) 講演

県内外から講演の依頼があり、その対応に努めました。

月 日	主催・イベント等名称	テーマ	参加者
5 月 14 日 (水)	中部産業・労働政策研究会産政塾	地球を守る、着実に行動を起こす	27 人
9 月 24 日 (水)	あすなる会	これからの山作りを考えよう	9 人
12 月 14 日 (木)	トヨタ自動車幹の会	森林の話	62 人

資料：森林課

(2) 視察等の受入れ

下記の市や団体から森づくりに関する視察の要望があり、森林課職員が対応しました。

月 日	受入団体等の名称	視察テーマ	参加者
7月15日(火)	豊田市議会産業建設委員会	市有林視察	8人
7月31日(木)	岐阜県山林組合恵那支部	豊田市の森づくり施策	11人
3月23日(月)	愛知県立猿投農林高等学校	黒坂市有林植樹式	13人

資料：森林課

(3) 印刷物等への掲載

公職研からの執筆依頼があり、森林課が対応しました。

印刷物等の名称	タイトル等	発行者
「地方自治職員研修」2008年11号	市町村レベルの新たな森林施策の活動	公職研

資料：森林課

(4) 市政番組「とよたNOW」特番の放映

ケーブルテレビ局の「ひまわりネットワーク」で定時放送している市政番組「とよたNOW」で森林課の行事が6回放映された他、ニュースにもしばしば登場し、森づくりの普及啓発に一役買いました。

放映日	番組タイトル	放映概要
5月8日(木)	とよた森林学校 森林セミナー ～矢作川の源流を歩こう～	「猿投山とシーカシ林」ブナ科樹木を中心に分かりやすく解説、紹介
8月27日(水)	森づくり普及啓発活動 ～巻枯らし間伐に挑戦～	市内の親子を対象に市有林(御内町)で間伐作業にふれあうことができる機会を紹介
9月17日(水)	とよた森林学校 ～間伐ボランティア初級講座～	旭地区旭高原にある市有林で人工林の整備活動に意欲のある人を対象に基本的な理論と実習状況を紹介
10月16日(木)	～「森づくり団地」間伐スタート～	森づくり団地計画の第1号団地として認定された足助地区籠林町塩平団地の間伐を紹介
1月16日(水)	～間伐材のベンチをプレゼント～	とよた森林学校受講生が制作したベンチを豊田市環境学習施設「eco-T」へプレゼント
3月24日(火)	とよた森林学校3周年	とよた森林学校3周年を記念して自然観察会、特別講演、OBの活動発表など行事を紹介

(注)他に「今日のニュース」でのイベント紹介多数

資料：森林課

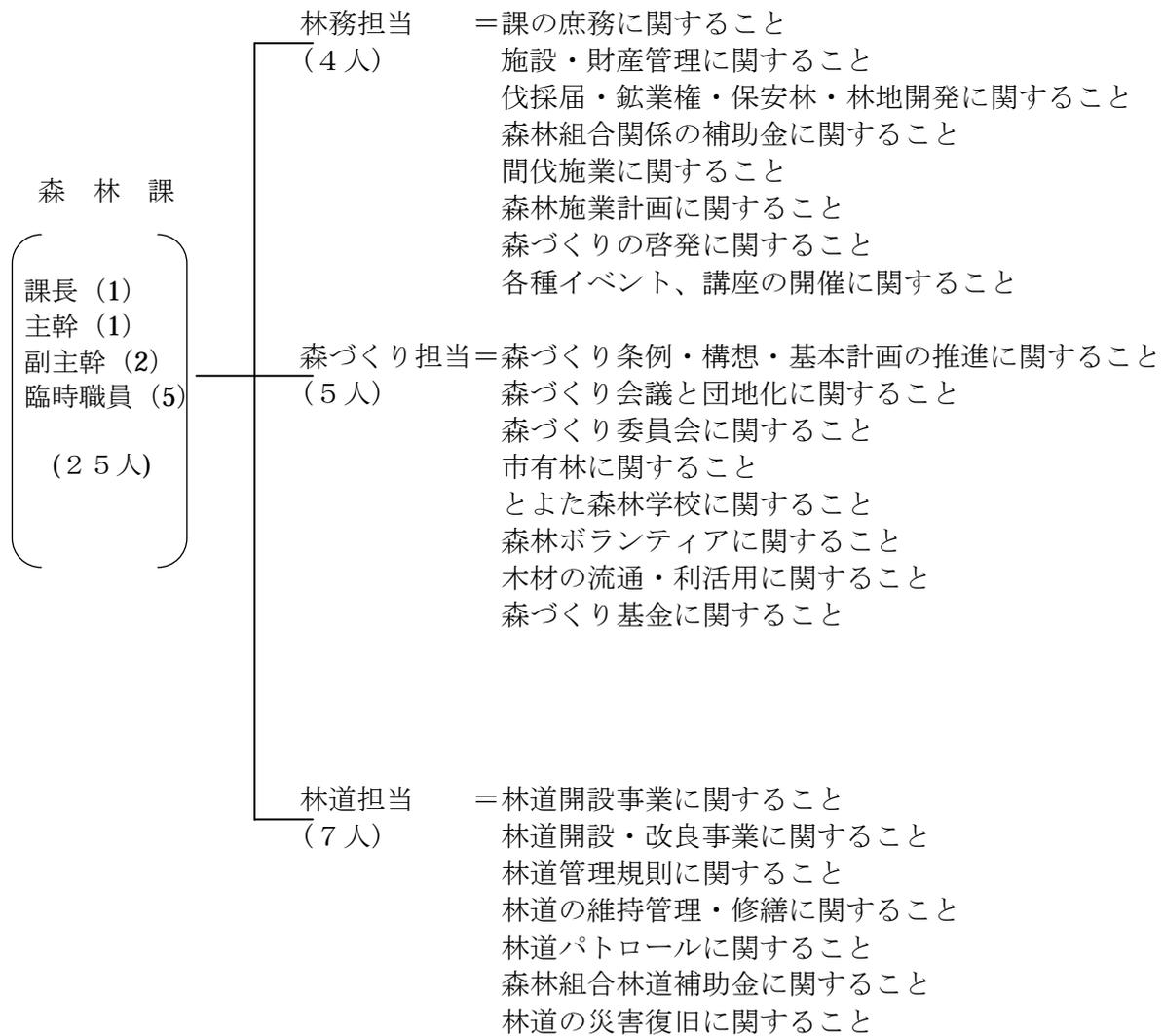
(5) 関連行事

その他、森づくりに関連して、次の事業に講師やアドバイザーとして参画しました。

関連行事等	延べ回数	内容
香嵐渓飯盛山整備事業の始動	7回	伐採木の選定・カエデ種子の捲種指導
名古屋大学農学生物環境科学基盤実習の指導	3	現地指導
木質資源利用ニュービジネス創出モデル 実証事業の指導	3	事業評価委員会への出席
新盛里山耕流塾の指導	8	アドバイザー参加及び現地指導
豊田東名ライオンズクラブ合同アクティビティ ー植樹祭等の指導	6	植樹指導及び小学校訪問講座
怒田沢県有林ふれあい事業	1	森林観察会及び間伐指導

資料：森林課

6. 産業部森林課の組織と主な業務(平成20年度)



この報告書は、豊田市の森林の状況、豊田市が行った森づくり施策等について、平成 20 年度の実績をまとめたもので、豊田市森づくり条例第 19 条の規定に基づき、豊田市が毎年、作成して公表するものです。

豊田市森づくり条例
(年次報告)

第 19 条 市長は、森林の状況、森づくり基本計画に基づき実施された施策の状況等について、年次報告書を作成し、これを公表するものとする。

= 表紙の写真 =

牛地市有林において、本数比 40%の定性間伐を実施した後に、「空あき」した様子。

平成 20 年度版 豊田市森づくり白書

平成 21 年 12 月

発行者 豊田市

編 集 豊田市産業部森林課

〒444 2424 愛知県豊田市足助町
宮ノ後 19 5 (豊田市足助支所地内)

: 0565-62-0602 FAX:62-0612

E-mail : shinrin@city.toyota.aichi.jp